

恒藤恭著作目録

松田 義男 編

改訂 2023 年 10 月 18 日

2008 年 10 月 2 日

目次

凡例

1. 著書
 2. 共著(序文類等を含む)
 3. 訳書
 4. 辞典
 5. 講義録・教科書
 6. 論文等(新聞・雑誌掲載)
 7. 初出一覧
- 付記

凡例

- * 「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 訳書」、「4. 辞典」、「5. 講義録・教科書」、「6. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別、それぞれ年次順に配列し、最後に論文集・随想集の初出を「7. 初出一覧」に掲げた。
- * 「1. 著書」の増補版・新版・復刊は、初版に一括して注記した。「2. 共著」は原則として初出の場合のみ掲げ、新聞・雑誌掲載が初出の場合は、「3. 論文等(新聞・雑誌掲載)」の初出に収録書として注記した。他誌紙への転載は独立した著作扱いとした。年報は雑誌として分類した。
- * 無署名およびペンネーム(天涯の孤客、天涯孤客、松琴生、井川松琴、天籟、井川天籟、天籟道人、篠懸二郎、鈴掛次郎、鈴かけ次郎、丘のひと、K、K・Tなど)については、《 》に示した。
- * 未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- * 大阪市立大学恒藤記念室所蔵資料で確認したものは、同室所蔵資料 NO(例【III-331】)を注記した。
- * 連載は、原則として初回掲載に一括した。
- * 目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- * 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- * 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により1946年を30巻、以後各年を1巻、1954年を38・39巻とし、1955年を40巻、以後各年を1巻とした。
- * 全国紙で東京本社発行版・大阪本社発行版がある場合、大阪本社発行版は『[大阪]読売新聞』と記し、朝・夕刊の別は、『[大阪]読売新聞[夕刊]』と記した。したがって、『読売新聞』とあれば、東京本社発行版の朝刊である。『[大阪]読売新聞[京都版]』は、大阪本社発行版の京都地域版である。
- * 座談会・対談等については、出席者などを[]に注記した。
- * その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録作成に際しては、「恒藤恭先生略歴・著作目録」『法解釈学および法哲学の諸問題 恒藤先生古稀祝賀記念』(有斐閣、1962年)、『大阪市立大学恒藤記念室所蔵資料目録』(大阪市立大学学術情報総合センター、2002年)、関口安義編『恒藤恭年譜・著作目録』(『恒藤恭とその時代』日本エディタースクール出版部、2002年)を参照したほか、大阪市立大学学術総合センター・同大学史資料室、国立国会図書館、国際子ども図書館、日本近代文学館、市政専門図書館、早稲田大学中央図書館・同高田記念図書館・同現代政治経済研究所、東京大学社会情報研究資料センター、同志社大学人文科学研究所、同志社女子大学史料室、島根県立大学短期大学部松江キャンパス図書館、大阪市立中央図書館、京都府立総合資料館、神戸市立中央図書館、佼成図書館、島根県立図書館、東京都立中央図書館、和歌山県立図書館、金光図書館より資料閲覧・照会の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

- 『批判的法律哲学の研究』内外出版、1921年10月10日[増補3版：内外出版、1924年2月10日]
- 『国際法及び国際問題』弘文堂、1922年10月5日
- 『ジムメルの経済哲学』<文化哲学叢書 第3編>改造社、1923年5月24日[新版『ジムメルの経済哲学』<改造選書>改造社、1947年4月15日]
- 『羅馬法に於ける慣習法の歴史及理論』弘文堂書房、1924年2月25日
- 『社会と意志』内外出版、1924年2月25日
- 『法律の生命』岩波書店、1927年5月10日
- 『価値と文化現象』弘文堂書房、1927年6月15日
- 『人間はどれだけの事をしてきたか(一)』<日本少国民文庫 1>新潮社、1936年9月25日[初版は1941年8月25日に第11刷刊。改訂版：新潮社、1942年11月5日。新版『人間はどれだけの事をしてきたか II』<日本少国民文庫 2>新潮社、1951年10月31日。改訂版では、初版の「二十四 世界の文明はどこへゆく」を「二十四 東洋文化と西洋文化」と改め、「二十五 世界新秩序と東亜共栄圏」を追加。新版では「二十四 深い眠りから目ざめる中国とインド」、「二十五 ヨーロッパの繁栄と第一次世界戦争」、「二十六 第二次世界戦争とその後の世界」と改める]
- 『法の基本問題』岩波書店、1936年10月20日
- 『法的人格者の理論』弘文堂、1936年11月20日[新版：世界思想社、1949年6月10日]
- 『世界民の立場から』<日本叢書 37>生活社、1946年4月25日[初出は「世界民の愉悦と悲哀」『改造』3-6、1921年6月1日][復刻版：大阪市立大学恒藤記念室編『世界民の立場から』(大阪市立大学大学史資料室、2013年)]
- 『新憲法と民主主義』岩波書店、1947年9月10日[既発表評論の他に、「基本的人権について」(1947年9月1日ラジオ放送於京都放送局)、「新憲法と経済的基本権」を収録]
- 『復活祭のころ』朝日新聞社、1948年5月10日
- 『知性の視野』有恒社、1948年12月1日
- 『旧友芥川龍之介』朝日新聞社、1949年8月10日[<市民文庫 129>河出書房、1952年。復刻版：<近代作家研究叢書 21>日本図書センター、1985年]
- 『法律と人生』<富士銀行発足記念 第四回成人講座シリーズ 第6集>[富士銀行]人事課・業務課・調査第一課、1950年7月【I-7-⑧】
- 『型による認識』勁草書房、1950年10月18日
- *『法律思想小史』<教養講座テキスト>日本放送協会、1952年[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 『憲法問題—その解決の基準は何か—』<岩波新書>岩波書店、1964年12月21日[再刊：講談社学術文庫、2612年]
- 『法思想史概説—法哲学の伝統—』日本評論社、1968年10月15日
- 『法の本質』岩波書店、1968年10月16日
- 『哲学と法学』岩波書店、1969年3月31日
- 『法の本質』岩波書店、1969年6月27日

『法と道徳』岩波書店、1969年9月27日

『若き日の恒藤恭』山崎時彦編、世界思想社、1972年1月5日[改題・増補版『恒藤恭の青年時代』未来社、2003年1月30日]

『井川恭著翡翠記』寺本喜徳編、島根国語国文学会、1992年4月5日[初出は『松陽新報』1915年8月]

『向陵記－恒藤恭一高時代の日記－』大阪市立大学、2003年3月31日

『翡翠記』宍倉忠臣編、山陰中央新報社、2004年5月20日『法と道徳』

『井川天籟「大空」井川恭「神戸衛生院日記」』<恒藤記念室叢書1>大阪市立大学恒藤記念室編、大阪市立大学大学史資料室、2011年3月31日

恒藤恭日記1932(昭和7)年、1933(昭和8)年、1934(昭和9)年／恒藤恭ノート1933(昭和8)年4・5月『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』<恒藤記念室叢書2>大阪市立大学恒藤記念室編集、大阪市立大学大学史資料室、2012年3月31日[ここでは初出のみ掲げる。その他の新聞・雑誌掲載の収録論文は「6. 論文等(新聞・雑誌掲載)」の初出の注記として表示]

『欧州留学日記』(一九二四年) 恒藤恭学長式辞集』<恒藤記念室叢書3>大阪市立大学恒藤記念室編、大阪市立大学大学史資料室、2013年3月31日

『恒藤恭「欧州留学日記」(1925年)』<恒藤記念室叢書4>大阪市立大学大学史資料室、2014年3月31日

『恒藤恭「戦中日記」(1941-1945年)』<恒藤記念室叢書6>大阪市立大学大学史資料室、2016年3月31日

『恒藤恭「商大学長時代日記/講演等レジュメ」(1946・1947年)』<恒藤記念室叢書7>大阪市立大学大学史資料室、2018年3月31日

恒藤恭 島根県立第一中学校時代の日記(「井川日記」)明治三十六年分 翻刻と注釈[奥野久美子編]『大阪市立大学史紀要』12、2019年10月31日

『恒藤恭「商大・市大学長時代日記/講演等レジュメ」1948・1949年』<恒藤記念室叢書8>大阪市立大学大学史資料室、2020年2月28日

恒藤恭 島根県立第一中学校時代の日記(「井川日記」)明治三十七年前半(一月～六月分) 翻刻と注釈[奥野久美子編]『大阪公立大学史紀要』1(『大阪市立大学史紀要』14)、2023年2月28日

2. 訳書

ラスク著『法律哲学』<大村論文叢書4>大村書店、1921年2月15日

ブレハノフ著『マルクス主義の根本問題』岩波書店、1921年6月15日[増補4版岩波書店、1927年3月10日]

ハルムス著『法律哲学概論』大村書店、1922年10月25日[新版『法哲学概論』玄林書房、1949年6月1日]

『法律哲学』<カント著作集第9巻>岩波書店、1933年10月30日[船田亨二と共訳]

マックス・ウェーバー著『社会科学方法論』<岩波文庫>恒藤恭校閲、富永祐治・立野保男訳、岩波書店、1936年11月15日[改版：岩波書店、1954年]

ブレハノフ著『マルクス主義の根本問題』『[第2期]世界大思想全集14 社会・宗教・科学思想篇』河出書房、1955年[新版河出書房、1964年9月5日]

自然他六篇『ゲーテ全集 第廿五巻』改造社、1940年12月20日

3. 共著（序文類等を含む）

*[短歌 6 首]『落穂集』青戸白虹編、1903 年 3 月<<井川天籟>>[島根県立図書館所蔵]

国際連合建設の主張とその発生『朝日新年文集 大正十一年』朝日新聞社、1922 年 1 月 25 日

信濃自由大学聴講生諸君！『信濃自由大学の趣旨及内容』1923 年 10 月[『土田杏村とその時代』7・8、1968 年 3 月 20 日、『自由大学研究』3、1975 年 10 月 25 日収録]

子供の名前の事など『芥川龍之介全集 月報第 5 号』岩波書店、1928 年 6 月[関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第 5 卷』（日本図書センター、1993 年）収録]

哲学と法律学との交渉『哲学と諸科学の交渉』<岩波講座哲学 5>岩波書店、1933 年 2 月 20 日[『哲学と法学』（岩波書店、1969 年）収録]

序『法学論文集 京大訣別記念』政経書院、1933 年 12 月 8 日

思ひ出の中から『芥川龍之介全集 月報第三号』1935 年 1 月[関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第 8 卷』（日本図書センター、1993 年）収録]

編纂の辞『土田杏村全集 第一巻 人生と哲学』第一書房、1935 年 3 月 15 日[務台理作、加藤仁平、山根徳太郎、土田千代との連名]

編輯者序『社会法の研究』[橋本文雄著]岩波書店、1935 年 4 月 10 日

小引『土田杏村全集 第九巻 生活と恋愛』第一書房、1935 年 4 月 15 日

杏村全集第九巻の編輯に当りて『紫野より 第三号』[『土田杏村全集 第九巻 生活と恋愛』付録]第一書房、1935 年 4 月 15 日

小引『土田杏村全集 第十四巻 随筆随想』第一書房、1935 年 8 月 15 日

土田杏村全集第十四巻「随筆随想」編纂後記『紫野より 第七号』[『土田杏村全集 第十四巻 随筆随想』付録]第一書房、1935 年 8 月 15 日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』（第一書房、1936 年 4 月 20 日）収録]

小引『土田杏村全集 第八巻 文明批評と社会問題』第一書房、1935 年 9 月 15 日

杏村全集第八巻の編纂について『紫野より 第八号』[『土田杏村全集 第八巻 文明批評と社会問題』付録]第一書房、1935 年 9 月 15 日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』（第一書房、1936 年 4 月 20 日）収録]

同志社大学の使命『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』<同志社校友同窓会報第百号特輯>同志社事業部、1935 年 10 月 27 日

小引『土田杏村全集 第三巻 現代思想批判』第一書房、1935 年 11 月 15 日

土田杏村全集第三巻「現代思想批判」編纂の後に『紫野より 第十号』[『土田杏村全集 第三巻 現代思想批判』付録]第一書房、1935 年 11 月 15 日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』（第一書房、1936 年 4 月 20 日）収録]

政治、特に国際政治の概念『立命館三十五周年記念論文集 法経篇』立命館大学編、立命館出版部、1935 年 11 月 25 日[『法と道徳』（岩波書店、1969 年）収録]

小引『土田杏村全集 第二巻 社会哲学及び文化哲学』第一書房、1936 年 1 月 15 日

杏村全集第二巻「社会哲学及び文化哲学」編纂後記『紫野より 第十二号』[『土田杏村全集 第二巻 社会哲学及び文化哲学』付録]第一書房、1936 年 1 月 15 日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』（第一書房、1936 年 4 月 20 日）収録]

小引『土田杏村全集 第七巻 新経済理論の研究』第一書房、1936 年 3 月 15 日

杏村全集第七巻『新経済理論の研究』編纂の後に『紫野より 第十四号』[『土田杏村全集 第七巻 新経済

- 理論の研究』付録]第一書房、1936年3月15日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』(第一書房、1936年4月20日)収録]
- 小引『土田杏村全集 第十五巻 隨筆隨想』第一書房、1936年4月20日
- 杏村全集第十五巻『隨筆隨想』後篇編纂の後に『紫野より 第十五号』[『土田杏村全集 第十五巻 隨筆隨想』付録]第一書房、1936年4月20日[「付録 編纂後記」『土田杏村全集 第十五巻』(第一書房、1936年4月20日)収録]
- 読書『学生と生活』河合榮治郎編、日本評論社、1937年7月17日[「読書について」と改題、『知性の視野』収録]
- 家族制度論『家族制度全集 第1部 第4巻 家』河出書房、1938年1月20日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]
- 社会における学生の地位『学生と社会』河合榮治郎編、日本評論社、1938年6月28日[『知性の視野』収録]
- 法的世界と法的世界観『国家及法律の理論 佐々木博士還暦記念』[田村徳治編]有斐閣、1938年10月25日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 学園の意義『学生と学園』河合榮治郎編、日本評論社、1939年6月25日[「学園と其の存在意義」と改題『知性の視野』収録。「学園とは何か」と改題『学園生活』<現代教養文庫 47>(社会思想研究会出版部、1953年2月25日)収録]
- 概論『人文科学思想』<廿世紀思想 第10巻>河出書房、1939年7月26日[「人文科学思想概論」と改題、『知性の視野』、『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 文化『文化』<哲学教養講座 第6巻>三笠書房、1939年8月15日[「文化の本質」と改題『知性の視野』収録]
- 現代の教養『現代の教養』<現代教養講座 第1巻>三笠書房、1939年11月7日[「教養について」と改題『知性の視野』収録]
- 学問の分類『学生と科学』河合榮治郎編、日本評論社、1939年12月20日[『知性の視野』収録]
- 制度『岩波講座倫理学 第一冊』岩波書店、1940年5月17日[『法の世界』(岩波書店、1969年)収録]
- 国際公域について『大阪商科大学創立六十周年記念論文集』大阪商科大学、1941年2月25日
- 羅馬『学生と西洋』河合榮治郎編、日本評論社、1941年4月15日[『西洋文化への省察』<現代教養文庫 8>(社会思想研究会出版部、1951年4月30日)再録]
- 政治生活と哲学『学生と哲学』河合榮治郎編、日本評論社、1941年10月20日
- 契約『岩波講座倫理学 第十四冊』岩波書店、1941年12月15日[『法の世界』(岩波書店、1969年)収録]
- 法律学『教養文献解説』河合榮治郎・木村健康編、日本評論社、1943年12月[河合榮治郎・木村健康編『増訂版 教養文献解説 上・下巻』1949年4月20日、1950年9月5日]
- 法律とヒューマニズム『ヒューマニズムと諸文化』<ヒューマニズム論 I>みすず書房、1947年3月15日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 法律『科学教養講座 社会科学篇1』三笠書房、1947年6月10日
- 序『KAPPA』芥川龍之介著・塩尻清市訳、秋田屋、1947年6月20日
- PREFACE『KAPPA』芥川龍之介著・塩尻清市訳、秋田屋、1947年6月20日
- 河上さんの面影『回想の河上肇』世界評論社、1948年3月15日
- 編輯者序『理論法学の諸問題』加古祐二郎著、日本評論社、1948年7月30日[改題新版『近代法の基礎構造』(日本評論社、1964年9月30日)に「加古祐二郎君の追憶」(『法律時報』35-3、4、1963年3月

- 1日、4月1日)を収録]
- 近代社会とその思想的成長『近代精神の探求 上』<京都大学学生部叢書 第11編>京都大学学生部編、明窓書房、1948年10月15日
- まえがき『こどものあゆみ さまざまな国さまさまの子供』国際出版、1948年11月15日
- 思想と社会『思想と言語』<社会学大系 第9巻>国立書院、1948年12月25日[復刊:社会学体系刊行会、1954年10月15日]
- 最近の世界の動向『二つの世界』<立命館大学土曜講座叢書 第4集>立命館大学人文科学研究所編、有斐閣、1949年1月5日
- 民主主義の公法原理『民主主義の法律原理』<法学選書>有斐閣、1949年2月20日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 解説『坊つちやん』[夏目漱石著]<新潮文庫>新潮社、1950年1月31日
- 序説『社会科学を学ぶ人々に』恒藤恭・瀧川幸辰編、世界思想社、1950年6月20日
- 国際社会『社会科学講座 第3巻』弘文堂編集部、弘文堂、1950年12月15日
- 法の進化『法学の基礎理論』<現代法学講座 第1巻>法律文化社、1952年5月20日[『社会科学辞典』(河出書房、1949年)から転載]
- 大学と大学生『小林一三対談十二題』実業之日本社、1953年2月25日[対談:小林一三][『小林一三全集 第7巻』(ダイヤモンド社、1962年)収録]
- 世界法及び世界国家『国際法講座 第1巻』有斐閣、1953年3月25日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 学生時代の読書のおもい出『学生と読書』<河出新書>河出書房、1954年4月30日[『読書のおもい出』と改題、『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]
- 監修のことば『法・法学年表(日本)』[監修]<法学理論篇 166b 法律学体系第二部>日本評論新社、1954年7月30日
- 友人芥川の追憶/石の感覚/学生層の思想的動きをかえりみる/大阪に造って欲しかった公園の構想/世界平和と新憲法/キリスト教と社会基層/わたくしのすきな人/読書のおもい出/憲法に盛られた夢/私の信条/学究生活の回顧/独立日本の目標と進路/死の灰と日本の安全保障『現代随想全集 27 田中耕太郎 恒藤恭 向坂逸郎集』東京創元社、1955年3月30日
- はしがき『法学研究入門』[監修]ミネルヴァ書房、1955年5月15日
- 法と法学『法学研究入門』[監修]ミネルヴァ書房、1955年5月15日[『法と法学I』と題して『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 跋文『国家の団体性』岩崎卯一著、関西大学出版部、1955年6月5日[有斐閣、1960年]
- 本書を薦める『高校生いかに生きべきか』高校生活と教育の研究会編、拓文館、1956年2月15日
- 法哲学の意義と課題『法の基本理論』<法哲学講座 第1巻>有斐閣、1956年3月30日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 不安と苦悩に打ち克つ確信と勇気『講座現代思想』全11巻・別巻1[出版内容見本]、岩波書店、1956年10月配本開始
- 法科大学一回生のころ『法学会案内』<『法律時報』別冊>日本評論新社、1957年4月25日
- 序『スエズ運河の研究 外交史的・政治的・経済的地位』今尾登著、有斐閣、1957年7月20日
- 明るい感想[審査感想]『永久の権利 中学校生徒作文 第五集』大阪府人権擁護委員連合会、1957年12

- 月 10 日 【I-106】
- 青年芥川の面影『近代文学鑑賞講座 第十一卷 芥川龍之介』角川書店、1958年6月5日
- 失われた倫理とこれに代わる倫理『モラルの根本問題』＜講座現代倫理 第1巻＞筑摩書房、1958年11月30日
- 感想[「審査感想」]『永久の権利 中学校生徒作文 第七集』大阪府人権擁護委員連合会、1959年12月10日 【Ⅷ(37)-43】
- 法の主体『法思想の歴史的展開 IV』＜法哲学講座 第5巻 上＞有斐閣、1960年7月30日[『法の世界』(岩波書店、1969年)収録]
- 田村徳治君の追憶『田村徳治』田村会、1960年11月24日
- 田村先生追悼座談会『田村徳治』田村会、1960年11月24日[1959年6月20日座談会：末川博、高田保馬、向井章、磯崎辰五郎、田畑忍、川上敬逸、吉富重夫、一円一徳、飛沢謙一、村西義一、米沢明、西山郁男]
- 時期をえた刊行[「私は期待する」]『岩波講座日本歴史』全23巻[出版内容見本]、岩波書店、1962年3月配本開始
- 絶対的平和主義と永世中立『憲法問題入門』有斐閣、1963年1月10日
- 現代を生きる人々に[「私は期待する」]『岩波講座現代』全14巻・別巻二冊[出版内容見本]、岩波書店、1963年
- 個人の尊厳—自由の法理との連関から見た個人の尊厳について—『自由の法理 尾高朝雄教授追悼論文集』有斐閣、1963年6月30日[『法の世界』(岩波書店、1969年)収録]
- 学生時代の芥川龍之介—いくつかのエピソード—『現代文学体系第25巻 月報1』筑摩書房、1963年9月
- 刑法学者瀧川幸辰君の追憶『瀧川幸辰 文と人』瀧川幸辰先生記念会編・刊、1963年11月16日[『ある生涯 瀧川幸辰 文と人』(世界思想社、1965年11月20日)収録]
- 京大時代の河上先生—断片的な思い出—『河上肇著作集第6巻付録 月報1』筑摩書房、1964年6月10日
- 戦争と国際法『戦争と各国憲法』＜憲法研究所特集 3＞憲法研究所出版部、1964年8月25日
- 憲法の最高性『憲法読本 下』＜岩波新書＞岩波書店、1965年4月27日
- 学生時代の思い出『京大法学部第一回五月祭典プログラム』1965年5月 【Ⅷ-(3)-4】
- 大阪地労委の発足第一年のころ[大阪府地方労働委員会事務局監修地労委創設20周年記念号] 1965年11月 【Ⅷ-(3)-18】
- 今年の応募作品の特色[「審査感想」]『永久の権利 中学校生徒作文 第十三集』大阪府人権擁護委員連合会、1965年12月 【Ⅷ-(3)-19】
- 回顧『公立大学協会十五年のあゆみ』公立大学協会編、公立大学協会事務局、1966年10月31日
- 芥川龍之介君との交友『奉教人の死・邪宗門 他六編』[芥川龍之介著]＜旺文社文庫＞旺文社、1967年1月15日
- 京都の寒さ暑さ／花の醍醐寺に思う／明治期の道徳教育／たいくつの感覚／第三の善意と各人の安全保障／仏事と現代生活／没我の心境／ある日の無宗教葬『随想大学総長の手記』京都新聞社編、鹿島研究所出版会、1974年11月30日
- 1924年10月22日付浜本浩宛書簡『文学者の手紙 3』日本近代文学館編＜日本近代文学館資料叢書 第II期＞博文館新社、2005年9月20日

4. 辞典

自然法／法律学／法律関係／法律秩序／法律哲学『哲学大辞書[追加]』同文館、1926年6月30日

アドラー／アリストテレス／イデオロギー／エピクロス／科学的社会主義／感覚論／カント『経済学辞典 第一巻』岩波書店、1930年11月15日[「アリストテレス」は『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

クノー／グリーン／クロボトキン／経済人／経済的基本権／経済哲学／ケルゼン／個人主義『経済学辞典 第二巻』岩波書店、1931年2月15日[「経済哲学」は『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

自然権／自然主義／自然法／自然法学／シュタムラー／シュトルツマン／新カント学派／新カント派の社会哲学／ジンメル／ジンメルの経済哲学／正義／生存権『経済学辞典 第三巻』岩波書店、1931年4月15日

フョエルバッハ／ヘーゲル／ヘーゲルの歴史哲学／法的社会主義／ホッブス／マルキシズム／マルクス／民約説／メンガー／目的論／労働義務／労働権／労働全収権『経済学辞典 第五巻』岩波書店、1932年1月15日[「法的社会主義」「ホッブス」は『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

強制法と任意法／権利及び義務『法律学辞典 1』岩波書店、1934年12月5日

実定法『法律学辞典 2』岩波書店、1935年6月30日

シュタムレル／新カント学派『法律学辞典 2』岩波書店、1935年6月30日[『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

法／法律関係『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日[『法の精神』（岩波書店、1969年）収録]

マルクス主義学派／利益法学『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日[増訂版1956年。『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

グローティウス、啓蒙哲学、国際労働条約、社会学主義、ストア学派、生の哲学、世界国家、治外法権、理想国、理想社会、歴史哲学『経済学辞典 追補』岩波書店、1936年10月20日

国家／法律の進化『社会科学新辞典』河出書房、1941年4月30日[改訂版：1946年6月10日]

法の進化『社会科学辞典』河出書房、1949年11月30日[『法学の基礎理論』＜現代法学講座 第1巻＞（法律文化社、1952年）、『法学の基礎』（法律文化社、1958年）、『法の精神』（岩波書店、1969年）収録]

古代社会思想『社会思想史辞典』創元社、1950年10月20日

序／カント／経済哲学／経済倫理／自然法／ジムメル／社会契約説／新カント学派／左右田喜一郎／マキアヴェリ／ルソー『経済学小辞典』岩波書店、1951年6月20日[「カント」「自然法」「ジムメル」「社会契約説」は『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

学問の自由『教育学事典 第1巻』平凡社、1954年11月30日

大学の自治『教育学事典 第4巻』平凡社、1955年1月31日

思想の自由『教育学事典 第3巻』平凡社、1955年9月30日

法／法学『世界大百科事典 26』平凡社、1958年7月25日[『法の精神』（岩波書店、1969年）収録]

法哲学『世界大百科事典 26』平凡社、1958年7月25日[『哲学と法学』（岩波書店、1969年）収録]

【注記】

伊藤吉之助編『岩波哲学小辞典』（1930年3月20日、岩波書店）[増訂版：1938年1月25日]では、項目担当者、増訂項目担当者に恒藤恭の名があるが、項目に執筆者名の記載はなく執筆項目は明らかではない。「恒藤恭著作リスト(1930～1945年)」（大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』＜恒藤記念室叢書 2＞(大阪市立大学大学史資料室、2012年)では、増訂版についてのみ、「国家」、「民族国家」、「人種法則的法学」を執筆としている。

5. 講義録・教科書

『法理学』[京都帝国大学法学部講義]黎明社、[19--]

『法理学』<政治経済講義>早稲田大学出版部、1931年[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]

- *『法理学—法律の權威について—』<政治経済講義>早稲田大学出版部、1931年[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
- *『日本と世界[見本版]』[監修]<中学社会 1>大阪書籍、1961年<東京学芸大学附属図書館所蔵>
- *『倫理・社会』[田中美知太郎との共著]<高等学校社会科>教学社、1963年4月20日検定済[改訂検定済：1966年4月11日]<東京学芸大学附属図書館所蔵>
- *『政治・経済』[青山秀夫・恒藤武二との共著]<高等学校社会科用>教学社、1964年4月20日検定済<東京学芸大学附属図書館所蔵>

6. 論文等(新聞・雑誌掲載)<993 篇>

1905(明治 38)年

- 年の訪れ[「長詩」]『銀鈴』3、1月1日<天涯の孤客>
 [銀鈴社編輯局選「香草」中の短歌3首]『銀鈴』3、1月1日<天涯の孤客>
 海棠[「新体詩」]『ハガキ文学』2-6、5月1日<松琴生>
 [「和歌」1首]『ハガキ文学』2-6、5月1日<松琴生>【Ⅷ(18)-58 と同一】
 青葉の奥[「普通文」]『ハガキ文学』2-8、6月1日<松琴生>
 蝶の狂ひ[「普通文」]『ハガキ文学』2-10、7月1日<松琴生>
 潮の夕暮[「普通文」]『ハガキ文学』2-12、8月1日<松琴生>
 [「短歌」1首]『ハガキ文学』2-15、10月1日<松琴生>
 黄なる朽葉[「普通文」]『ハガキ文学』2-16、10月10日<松琴生>
 [「短歌」1首]『ハガキ文学』2-16、10月10日<松琴生>【Ⅷ(18)-63 同一】
 天津[「新体詩」]『ハガキ文学』2-16、10月10日<松琴生>
 *出雲の秋[「新体詩」]『ハガキ文学』2-17、11月1日<松琴生>
 *短歌1首『ハガキ文学』2-17、11月1日<松琴生>
 爛秋の歌『松陽新報』11月3日【Ⅷ(14)-66】
 川舟[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』2-18、12月1日<松琴生>
 [「俳句」1首]『ハガキ文学』2-18、12月1日【Ⅷ(18)-69 と同一】

1906(明治 39)年

- 土橋[「普通文」]『ハガキ文学』3-1、1月1日<松琴生>
 子供心[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』3-1、1月1日<松琴生>
 小川[「新体詩」]『ハガキ文学』3-1、1月1日<井川恭>
 [「新川柳」一首]『ハガキ文学』3-2、2月1日<井川恭>
 白い烟[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』3-3、3月1日<松琴生>
 *おとき[小説]『ハガキ文学』3-3、3月1日<松琴生>
 鶯の御土産[「ハガキお伽」]『ハガキ文学』3-3、3月1日<松琴生>
 燈台守の歌[「青年文壇」]『中学世界』9-3、3月1日<井川松琴>
 長屋の春[「普通文」]『ハガキ文学』3-4、3月15日<井川恭>
 鉄如意[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』3-4、3月15日<松琴生>
 胡蝶姫[「ハガキお伽」]『ハガキ文学』3-4、3月15日<松琴生>

- 白椿[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』3-5、4月1日《松琴生》
三つの珠[「ハガキお伽」]『ハガキ文学』3-5、4月1日
花占[「新体詩」]『ハガキ文学』3-6、5月1日《井川松琴》
[「和歌」1首]『ハガキ文学』3-7、6月1日
蜆取り『松陽新報』6月16日《井川天籟》【Ⅷ-(18)-4】[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
浜千鳥[「普通文」]『ハガキ文学』3-8、7月1日《井川松琴》
古城の雨[「普通文」]『ハガキ文学』3-8、7月1日《井川松琴》
天秘[「新体詩」]『ハガキ文学』3-8、7月1日《井川松琴》
蛍[「ハガキお伽」]『ハガキ文学』3-8、7月1日《井川松琴》
[「和歌」1首]『ハガキ文学』3-8、7月1日
同じ恋人[「普通文」]『ハガキ文学』3-9、8月1日《井川松琴》
[「和歌」3首]『ハガキ文学』3-9、8月1日【Ⅷ(18)-82と同一】
大山『松陽新報』8月2日《井川天籟》[穴倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]
*多胡の七つ穴『松陽新報』8月[穴倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]
裾野のくれ[「普通文」]『ハガキ文学』3-10、9月1日《井川松琴》
[「和歌」1首]『ハガキ文学』3-10、9月1日
桔梗[「新体詩」]『ハガキ文学』3-11、10月1日《井川松琴》
銅山[「普通文」]『ハガキ文学』3-13、11月15日《井川松琴》
破れ笠[「普通文」]『ハガキ文学』3-14、12月1日《井川松琴》
木枯[「新体詩」]『ハガキ文学』3-14、12月1日《井川松琴》

1907(明治40)年

- 初日の出[「普通文」]『ハガキ文学』4-1、1月1日
宵闇[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』4-1、1月1日《井川松琴》
雪[「普通文」]『ハガキ文学』4-2、2月1日《井川松琴》
田舎馬車[「普通文」]『ハガキ文学』4-3、3月1日《井川松琴》
恋の運命[「新体詩」]『ハガキ文学』4-3、3月1日《井川松琴》
公園のベンチ[「普通文」]『ハガキ文学』4-4、4月1日《井川松琴》
山の思ひ[「新体詩」]『ハガキ文学』4-4、4月1日《井川松琴》
*青竹記『松陽新報』4月17日
落武者[「普通文」]『ハガキ文学』4-5、5月1日《井上松琴》
誕生日に萩の餅に添へて[「ハガキ文」]『ハガキ文学』4-5、5月1日《井川松琴》

春の山路『松陽新報』5月9～12日[宍倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

青葉の薩[「ハガキ小説」]『ハガキ文学』4-6、5月15日<<井川松琴>>

村夫子[「写生文」]『ハガキ文学』4-6、5月15日<<井川松琴>>

雨の夜[「普通文」]『ハガキ文学』4-7、6月1日<<井川松琴>>

[「山陰俳壇 蚊帳」2首]『山陰新聞』7月11日<<天籟>>

[「山陰俳壇 雪の峰」5首]『山陰新聞』7月13日<<天籟>>

闊秀文学家[「新体詩」]『ハガキ文学』4-9、8月1日<<井川松琴>>

[「山陰俳壇 夕顔」5首]『山陰新聞』8月1日<<天籟>>

[「山陰俳壇 蚊」2首]『山陰新聞』8月6日<<天籟>>

[「山陰俳壇 涼」2首]『山陰新聞』8月7日<<天籟>>

[「山陰俳壇 雨蛙」2首]『山陰新聞』8月16日<<天籟>>

[「山陰俳壇 蟬」1首]『山陰新聞』8月17日<<天籟>>

[「山陰俳壇 清水」6首]『山陰新聞』8月18日<<天籟>>

[「山陰俳壇 雷」4首]『山陰新聞』8月21日<<天籟>>

[「山陰俳壇 虫干」1首]『山陰新聞』8月24日<<天籟>>

[「山陰俳壇 昼寝」1首]『山陰新聞』8月30日<<天籟>>

[「山陰俳壇 打水」1首]『山陰新聞』8月31日<<天籟>>

[「山陰俳壇 団扇」1首]『山陰新聞』9月1日<<天籟>>

[「山陰俳壇 青嵐」1首]『山陰新聞』9月7日<<天籟>>

[「山陰俳壇 案山子」2首]『山陰新聞』9月23日<<天籟>>

[「山陰俳壇 秋風」2首]『山陰新聞』9月24日<<天籟>>

[「山陰俳壇 稲妻」2首]『山陰新聞』9月26日<<天籟>>

[「山陰俳壇 初秋」2首]『山陰新聞』10月1日<<天籟>>

時代の反影[「新体詩」]『ハガキ文学』4-11、10月1日<<井川松琴>>[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

[「山陰俳壇 虫」4首]『山陰新聞』10月2日<<天籟>>

[「山陰俳壇 夜長」3首]『山陰新聞』10月3日<<天籟>>

[「山陰俳壇 天の川」2首]『山陰新聞』10月4日<<天籟>>

[「山陰俳壇 桔梗」1首]『山陰新聞』10月8日<<天籟>>

[「山陰俳壇 鶏頭」1首]『山陰新聞』10月12日<<天籟>>

[「山陰俳壇 花野」3首]『山陰新聞』10月16日<<天籟>>

[「山陰俳壇 茫」5首]『山陰新聞』10月31日<<天籟>>

[「山陰俳壇 萩」4首]『山陰新聞』11月1日<<天籟>>

- 秋風[「普通文」]『ハガキ文学』4-12、11月1日<井川松琴>
絵葉書熱[「如是録」]『ハガキ文学』4-12、11月1日<井川松琴子>
秋天放吟『山陰新聞』11月9～11日<井川天籟>
[「山陰俳壇 秋の水」1首]『山陰新聞』11月13日<天籟>
[「山陰俳壇 秋の山」1首]『山陰新聞』11月21日<天籟>
[「山陰俳壇 蕎麦の花」4首]『山陰新聞』11月30日<天籟>
*蛇山登山記『松陽新報』11月[穴倉忠臣編『翡翠記(山陰中央新報社、2004年)収録]
苔[「普通文」]『ハガキ文学』4-13、12月1日<井上松琴^ま>
電信技手[「新体詩」]『ハガキ文学』4-13、12月1日<井川松琴>
[「山陰俳壇 月」4首]『山陰新聞』12月2日<天籟>
[「山陰俳壇 朝寒」1首]『山陰新聞』12月11日<天籟>
[「山陰俳壇 柿」1首]『山陰新聞』12月12日<天籟>

1908(明治41)年

- 炬燵[「普通文」]『ハガキ文学』5-1、1月1日
女心[「新体詩」]『ハガキ文学』5-1、1月1日<井川松琴>
都会に於ける労役婦人の楽天地『女学世界』8-2、1月15日<天籟>
乞食[「普通文」]『ハガキ文学』5-2、2月1日<井川松琴>
草鞋で来い[「ハガキ文」]『ハガキ文学』5-2、2月1日<井川松琴>
寒夜『明星』申歳2号、2月1日<井川天籟>
大宇宙[「新体詩」]『ハガキ文学』5-3、3月1日<井川松琴>[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、
『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]
冷笑[「短編小説」]『ハガキ文学』5-3、3月1日<井川松琴>
白魚[「普通文」]『ハガキ文学』5-4、4月1日<井川松琴>
呑気だよ[「ハガキ文」]『ハガキ文学』5-4、4月1日<井川松琴>
*仏教山『松陽新報』5月[穴倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]
国境[「普通文」]『ハガキ文学』5-6、6月1日<井川松琴>
下宿の二階から[「ハガキ文」]『ハガキ文学』5-6、6月1日<井川松琴>
蚊帳の中[「普通文」]『ハガキ文学』5-7、7月1日<井川松琴>
[「山陰俳壇 五月雨、卯の花下」1首]『山陰新聞』7月6日<天籟>
[「山陰俳壇 短夜」1首]『山陰新聞』7月14日<天籟>
作者の小伝『都新聞』7月16日<井川天籟>
海の花[懸賞小説第一等]『都新聞』7月16～31日、8月1～24日<井川天籟>[『若き日の恒藤恭』(世界

思想社、1972年)収録]

- [「山陰俳壇 夏の川」1首]『山陰新聞』7月25日<天籟>
[「山陰俳壇 暑」2首]『山陰新聞』7月28日<天籟>
[「山陰俳壇 祭」2首]『山陰新聞』7月29日<天籟>
檜の樹[「新体詩」]『ハガキ文学』5-8、8月1日<井川松琴>
[「山陰俳壇 夏の月」2首]『山陰新聞』8月6日<天籟>
[「山陰俳壇 夏草」1首]『山陰新聞』8月15日<天籟>
[「山陰俳壇 夏の山」3首]『山陰新聞』8月27日<天籟>
[「山陰俳壇 囲碁」2首]『山陰新聞』9月1日<天籟>
[「山陰俳壇 秋の蚊帳」2首]『山陰新聞』10月8日<天籟>
[「山陰俳壇 草庵」2首]『山陰新聞』10月20日<天籟>
[「山陰俳壇 秋の日」2首]『山陰新聞』11月9日<天籟>
[「山陰俳壇 秋海棠」1首]『山陰新聞』11月15日<天籟>
[「山陰俳壇 鱒」3首]『山陰新聞』12月4日<天籟>

1909(明治42)年

- 日の歌[「新体詩」]『ハガキ文学』6-1、1月1日<井川松琴>
雪路より[「ハガキ文」]『ハガキ文学』6-1、1月1日<井川松琴>
[「山陰俳壇 時雨」1首]『山陰新聞』3月23日<天籟>
森の泉[「新体詩」]『ハガキ文学』6-5、5月1日<井川松琴>
[「山陰俳壇 合歓の花」1首]『山陰新聞』7月6日<天籟>
[「山陰俳壇 青田」1首]『山陰新聞』7月9日<天籟>
[「山陰俳壇 浴衣」1首]『山陰新聞』8月17日<天籟>
[「山陰俳壇 日傘」2首]『山陰新聞』8月21日<天籟>
[「山陰俳壇 蚤」1首]『山陰新聞』8月26日<天籟>
[「山陰俳壇 旱」1首]『山陰新聞』8月29日<天籟>
[「山陰俳壇 田草取」1首]『山陰新聞』8月30日<天籟>
[「山陰俳壇 瓜」1首]『山陰新聞』9月1日<天籟>
[「山陰俳壇 秋」1首]『山陰新聞』9月23日<天籟>
天狗山『松陽新報』10月4日～<井川天籟>【Ⅷ-(18)-50】
山あざみ『松陽新報』10月28日～<井川天籟>【Ⅷ-(18)-51】
臥牛山『松陽新報』11月1日<井川天籟>【Ⅷ-(18)-52】

天長節の一日『松陽新報』11月3日≪井川天籟≫【Ⅷ-(18)-53】

嵐の夜『松陽新報』12月1日≪天籟生≫【Ⅷ-(18)-54】

大道歯医者『松陽新報』12月≪天籟生≫【Ⅷ-(18)-55】

1910(明治43)年

嬉しいお正月『松陽新報』1月2日≪井川天籟≫【Ⅷ-(18)-57】[「うれしいお正月」と改題『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、原題のまま『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

戦ひの世に処する堅実な頭脳『女学世界』10-8、7月1日≪井川天籟≫

避暑?『都新聞』7月17日≪天籟生≫

たれ彼れ『都新聞』7月18日≪天籟生≫

雨の夜『都新聞』7月19日≪天籟生≫

鎌倉から江の島へ『都新聞』7月20日≪井川天籟≫

新婚[「小品」]『都新聞』7月27日≪井川天籟≫

思ふところ[「小品」]『都新聞』7月31日、8月2日≪井川天籟≫

朝顔『都新聞』8月4日≪井川天籟≫

盆踊り[「小品」]『都新聞』8月6日≪井川天籟≫

墓[「小品」]『都新聞』8月7日≪井川天籟≫

二老人[「小品」]『都新聞』8月8日≪井川天籟≫

漁村の巡査[「小品」]『都新聞』8月9日≪井川天籟≫

一日の避暑[「小品」]『都新聞』8月11、12日≪井川天籟≫

江戸っ子[「小品」]『都新聞』8月17日≪井川天籟≫

水!水!水!東京の洪水見物『松陽新報』8月19、20、22~24日≪井川天籟≫

彼を拝せんとす[「小品」]『都新聞』8月23日≪天籟生≫

誰にか訴へむ[「小品」]『都新聞』8月27日≪井川天籟≫

新秋[「小品」]『都新聞』8月28日≪井川天籟≫

或は遅からむか[「小品」]『都新聞』8月30日≪井川天籟≫

うら浪へうもんでふ[「小品」]『都新聞』9月1日≪井川天籟≫

*区裁判所の昨今[記事]『都新聞』9月3日【無署名】

一夜の涼味『松陽新報』9月3、4日≪井川天籟≫

虎の門外[「小品」]『都新聞』9月4日≪井川天籟≫

天の香具山[「小品」]『都新聞』9月6日≪井川天籟≫

俳優志願で家出[記事]『都新聞』9月6日≪無署名≫

*牢に入るのが嬉しい[記事]『都新聞』9月6日≪無署名≫

前科者[「小品」]『都新聞』9月7日<井川天籟>
競馬事件の判決[記事]『都新聞』9月7日<無署名>
冷酷なる大学病院[記事]『都新聞』9月8日<無署名>
帝都の玄関口[記事]『都新聞』9月10日<無署名>
草履一足が懲役二ヶ月[記事]『都新聞』9月10日<無署名>
眠眠先生[「小品」]『都新聞』9月11日<井川天籟>
二週間の勉強で一高の入学試験を通過した僕の経験『中学世界』13-12、9月16日<天籟生>
マイマイツムリ[「小品」]『都新聞』9月17日<井川天籟>

1911(明治44)年

頭の用心御用心[「雑纂」]『教育学術界』22-5、2月10日<天籟道人>
飛行機よ『松陽新報』4月7、8日<井川天籟>
南寮日記[懸賞小説]『万朝報』5月5、6日<丘のひと>
詩七篇【木立、鼻、なぎさにて、薊の花、斯く歌へるもの、光を恋ふ、真珠】『第一高等学校校友会雑誌』
206、6月4日
滝『松陽新報』7月19、21日
竹の鞭『松陽新報』8月3、5日
城の奥『松陽新報』8月26、27日<井川天籟>[宋倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]
柿の実を[小説]『小学校』12-2、10月20日<井川天籟>

1912(明治45・大正元)年

ニムフの歌[「文芸史伝」]『教育学術界』24-6、2月10日<井川天籟>
壬午歳の火災要心令[「雑纂」]『教育学術界』24-6、2月10日<天籟道人>
むさし野『松陽新報』2月21～24日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』
(未来社、2003年)収録]
矛盾『第一高等学校校友会雑誌』214、4月3日
跳る浪[「文芸史伝」]『教育学術界』25-1、2、4月10日、5月10日<井川天籟>
しだれ桜[小説]『小学校』13-2、4月20日<井川天籟>
桃色のローマンス『中学世界』15-6、7、4月24日、5月24日<鈴かけ次郎>
黄昏、枳殻、弱者、はつ夏、生『第一高等学校校友会雑誌』215、5月20日
五月の歌『第一高等学校校友会雑誌』217、6月20日
海よ青き海よ『中学世界』15-9、10、6月24日、7月24日<鈴かけ次郎>
帰郷記一都の友へおくるたより『松陽新報』6月26、27日[宋倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004

年)収録]

詩三篇【紫陽花、片原川、城山にて】『松陽新報』7月6日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、
『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

くるみ拾ひ[「文芸史伝】『教育学術界』25-4、7月10日<<篠懸二郎>>

白き愁ーわが夏のー 『松陽新報』7月19日[宋倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

少年の日『文章号』<島根県立松江中学校『学友会雑誌』26>7月20日<<井川天籟>>【I-5-④】

淵[小説]『小学校』13-9、7月20日

あげ羽の蝶ーわが夏の二 『松陽新報』7月20日[宋倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

月の夜ーわが夏の三 『松陽新報』8月2、8、13日

感激『松陽新報』8月21、22、25、28、30、31日、9月1、3、4、6、10、11、14、15、18日

悪戯四人書生『中学世界』15-11、13、8月24日、10月1日<<鈴かけ次郎>>

二先生[「文芸史伝】『教育学術界』25-6、9月10日

サロメーふるさとの妹へ送る便りー『松陽新報』11月20、27～30日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、
1972年)、『向陵記』(大阪市立大学、2003年)収録]

空白の一点[「文芸史伝】『教育学術界』26-4、12月10日<<鈴かけ次郎>>

1913(大正2)年

新しきものと若き心『松陽新報』1月2、3、5日<<3、5日付掲載のみ井川天籟>>[『若き日の恒藤恭』(世界
思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)、『向陵記』(大阪市立大学、2003年)収録]

小説 聖き横顔『小学校』14-10、2月20日

オイッケン教授の幸福観[「論説】『教育学術界』26-7、3月10日

レエタ・アキリア…アナートル・フランス…[「文芸史伝】『教育学術界』27-1、4月10日<<鈴掛次郎訳>>
[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

さらば中学時代よ!!!『中学世界』16-6、7、5月1日、6月1日<<鈴かけ次郎>>

赤城の山つゝじ『松陽新報』7月16、17、19、22、23日[『旧友芥川龍之介』(朝日新聞社、1949年)、『恒
藤恭の青年時代』(未来社、2003年)、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『向陵記』(大阪市
立大学、2003年)収録]

夏のファンタジア『中学世界』16-10、11、8月1日、9月1日<<鈴かけ次郎>>

バルタザール…アナートル・フランス…[「文芸史伝】『教育学術界』27-5、8月10日<<鈴掛次郎訳>>

松江美論『松陽新報』8月21、22～24、27、29～31日、9月2、4、6、10、11日[宋倉忠臣編『翡翠記』(山陰
中央新報社、2004年)収録]

小説上京[「文芸史伝】『教育学術界』27-6、28-1～3、9月10日、10月10日、11月10日、12月10日
<<鈴かけ次郎>>

セレナード(訳詩二篇)…ポール・ヴェルレーヌ…【夜想曲、みとせ経て】『水郷』1、10月25日【I
-5-①】[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

かなしみのくさ『水郷』1、10月25日【I-5-②】

静けき悩み『松陽新報』10月31日、11月4～6日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

少年秋戦行『中学世界』16-14、16、11月1日、12月1日<<鈴かけ次郎>>

1914(大正3)年

京店物語『松陽新報』1月3日

潮のなげき[小説]『小学校』16-10～12、2月15日、3月1、15日

勇者の歎び『中学世界』17-3、3月1日<<鈴かけ次郎>>

お篠さんの一家『Tarantola』1、3月20日【I-5-⑥】

詩三篇【冬、清水で、窓】『Tarantola』1、3月20日【I-5-⑦】[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

海への騎者-J.M.SYNGE-[翻訳]『新思潮[第3次]』1-5、6月1日

自由中学の試み[「学生小説」]『中学世界』17-8、6月5日<<鈴かけ次郎>>

土佐から『松陽新報』7月22、23、25、26、28～30日、8月2、4～6日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

1915(大正4)年

王冠をつくる人[「学生小説」]『中学世界』18-8、6月5日<<鈴かけ次郎>>[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

翡翠記『松陽新報』8月[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)抄録、『井川恭著翡翠記』(島根国語国文会、1992年)、関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第1巻』(日本図書センター、1993年)抄録、『ふるさと文学館 第38巻 島根』(ぎょうせい、1993年)、宍倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

1916(大正5)年

山上『松陽新報』1月2、3日【Ⅶ-(21)-28】[『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

珊瑚を砕く[「学生小説」]『中学世界』19-2、4、5、6、8、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日【鈴かけ次郎】[『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

増野三良をおもう『松陽新報』6月6日【Ⅶ-(21)-29】

葎草『松陽新報』7月11～26日【Ⅶ-(21)-30】[(十二)～(二十三)を宍倉忠臣編『翡翠記』収録]

海島記『松陽新報』8月～【Ⅶ-(21)-32～42】

閑日[この頃、『松陽新報』に発表か]

1917(大正 6)年

窓紗『松陽新報』8月【VII-(15)-1、(21)-44】[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録。「父のおもひ出」、「紅の森」と題して『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)抄録]

我れわれの工場『中学世界』20-14、15、21-1、11月1日、12月1日、**1918年**1月1日

北独逸連邦ノ設立行為ニ関スル Binding ノ所説[「大学院学生法律研究会記事」]『京都法学会雑誌』12-11、11月1日

1918(大正 7)年

法及ビ戦争ニ関スルグロチウスノ思想[グロチウス『戦争と平和の法』緒論、第1巻第1～3章の抄訳]『京都法学会雑誌』13-2～4、2月1日、3月1日、4月1日

羅馬法ニ於ケル慣習法ノ制度及ビ理論『京都法学会雑誌』13-9～12、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日[「羅馬法の法源史における慣習法の地位」と改題、『羅馬法に於ける慣習法の歴史及理論』(弘文堂書房、1924年)収録]

真弓の周囲[「学生小説」]『中学世界』21-13～15、10月1日、11月1日、12月1日

1919(大正 8)年

羅馬法ニ於ケル慣習法ノ理論『法学論叢』1-2～6、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日[「羅馬法における慣習法の理論」と改題、『羅馬法に於ける慣習法の歴史及理論』(弘文堂書房、1924年)収録]

棘ある杖[「学生小説」]『中学世界』22-6、8～11、13～15、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日

ラスクノ『法律学方法論』ノ解説『法学論叢』2-1、3、7月1日、9月1日[「ラスクの『法律学方法論』の解説」と改題、『批判的法律哲学の研究』(内外出版、1921年)収録]

スタムラーノ法理学ノ根本的見地『法学論叢』2-5、6、11月1日、12月1日[「シュタムラーの法理学の根本的見地」と改題、『批判的法律哲学の研究』(内外出版、1921年)収録]

1920(大正 9)年

スタムラー『法律的变化の原因』[翻訳]『法学論叢』3-1、3、5、4-1、1月1日、3月1日、5月1日、7月1日

スタムラーの『法律概念論』の考察『同志社論叢』1、3月1日[「シュタムラーの『法律概念論』の考察」と改題、『批判的法律哲学の研究』(内外出版、1921年)収録]

同志社論叢の創刊につきて[「雑録」]『同志社時報』174、4月1日

学校生活その者を尊重する精神[「想苑」]『同志社時報』175、5月1日

アントン・メンガア『労働全収権、生存権及び労働権の本質』[翻訳]『同志社論叢』2、6月20日

アントン・メンガア『社会主義的国家論』の輪郭[翻訳]『法学論叢』4-4～6、10月1日、11月1日、12月1日

法律制度の社会的機能[「ヨセフ・カルナの翻訳」]『我等』2-10、10月1日

1921(大正 10)年

フリースの法律哲学の考察『法学論叢』5-2、3、5、2月1日、3月1日、5月1日[『批判的法律哲学の研究』(内外出版、1921年)収録]

スタムラーの『法律理念論』の考察『同志社論叢』4、2月25日[「シュタムラーの『法律理念論』の考察」と改題『批判的法律哲学の研究』(内外出版、1921年)収録]

カント『法律学の形而上学的原理』の緒論[翻訳]『同志社論叢』5、5月20日

世界民の愉悦と悲哀『改造』3-6、6月1日[『国際法及び国際問題』(弘文堂、1922年)収録。『世界民の立場から』(生活社、1946年)と題して刊]

サン・シモンの国家観[アンリ・ミツシエルの翻訳]『我等』3-8、9、8月1日、9月1日

暗黒[詩]『狼烟』1、12月1日【I-5⑥】

1922(大正 11)年

国際連盟と国際連合との対立の理論的意義『同志社論叢』7、2月15日[「永久平和実現の二途」と改題、『国際法及び国際問題』(弘文堂、1922年)収録]

モンロー主義の論理『解放』4-3、4、3月1日、4月1日[『国際法及び国際問題』(弘文堂、1922年)収録]

社会哲学に於ける主意的二元論的思想『経済論叢』14-5、6、15-1、3、5、5月1日、6月1日、7月1日、9月1日、11月1日[『社会と意志』(内外出版、1924年)と題して刊]

シュタムラーの法理的範疇論について『哲学研究』7-5～7、5月1日、6月1日、7月1日[「シュタムラーの法律範疇論」と改題『批判的法律哲学の研究[増補3版]』(内外出版、1924年)収録]

イェリネックの国際条約本質論『同志社論叢』8、6月15日[「イェリネックの国際法本質論」と改題『国際法及び国際問題』(弘文堂、1922年)収録]

社会運動における正統と異端『解放運動』12月1日【Ⅷ-(29)-①】

1923(大正 12)年

フォイエルバッハ『哲学の改革に関する提言』[翻訳]『同志社論叢』10、2月25日[『マルクス主義の根本問題[増補4版]』(岩波書店、1927年)収録]

法律の生命『改造』5-3、3月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

羅馬法王の国際的地位について[「時評」]『改造』5-3、3月1日

価値の類型と個性『経済論叢』16-4～6、4月1日、5月1日、6月1日[『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

国際法と社会契約説『講座』5、7、8、5月1日、7月1日、8月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

国際連盟に関して塚本氏に応ふ『同志社論叢』11、6月15日

文化的認識と歴史的認識『経済論叢』17-1、2、7月1日、8月1日[「文化的認識の二方向」と改題『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

共産社会の自存的形式と寄生的形式『我等』5-8、8月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]

生存権と法律体系—生存権を中心として観たる公法及び私法の対立の問題—『改造』5-9、9月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

共産の原理『経済論叢』17-3、9月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]

生活安定の要求と事実『我等』5-9、9月1日[『我等』5-10、11月15日にも掲載]

法律秩序の認識『法学論叢』10-4、5、10月1日、11月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

自律の法理的意義『哲学研究』8-11、11月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

経済学の自然哲学的基礎[ブルガコフ著の翻訳]『同志社論叢』12、11月25日

価値の量『経済論叢』17-6、12月1日[『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

1924(大正13)年

道徳的価値判断に関するスミスの思想『経済論叢』18-1、1月1日[「道徳的価値判断に関するアダム・スミスの思想」と改題]『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

平等の権利『大阪毎日新聞』1月11～14日[(一)(二)を]『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1986年)収録]

自然美と芸術美『改造』6-2、2月1日[『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

政治現象の本質『経済論叢』18-2、3、2月1日、3月1日[『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

同志社論叢の生ひ立ち『同志社時報』216、2月1日

法律価値の内容と妥当性『法学論叢』11-2、3、2月1日、3月1日[『法律の生命』(岩波書店、1927年)収録]

自然価値と文化価値との対立『同志社論叢』13、2月25日[『価値と文化現象』(弘文堂書房、1927年)収録]

多数決の原理『我等』6-2、3月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]

仏都通信[芥川龍之介宛書簡]『書物往来』3、8月20日

1926(大正15・昭和元年)

天使のいばり『文芸春秋』4-12、12月1日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

1927(昭和2)年

思想の正当性と異端性『改造』9-4、4月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]

或る仏蘭西人への書簡[「読物三篇」]『経済往来』2-5、5月1日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

哲学の始点について[フォイエルバッハ(Ludwig Feuerbach, Uber den, Anfang der Philosophie, 1841)の翻訳]『大調和』3、6月1日

ディーニュの町『文芸春秋』5-6、6月1日[『世界文学月報 第三号』(ヴィクトル・ユーゴー著・豊島與志雄訳)『世界文学全集 第13巻 レ・ミゼラブル 2』[第4回配本]新潮社、1927年6月15日、『復

- 活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]
- ヘーゲル哲学の批判[フォイエエルバッハの翻訳]『我等』9-5～7、6月1日、7月1日、8月1日
- 文化現象の凝集作用『経済論叢』25-2、3、5、6、8月1日、9月1日、11月1日、12月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]
- 芥川龍之介[「芥川龍之介氏」]『改造』9-9、9月1日[「友人芥川龍之介」と題して『明治大正文学選集 下』(星野書店、1929年)収録、初出原題のまま『旧友芥川龍之介』(朝日新聞社、1949年)、関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第1巻』(日本図書センター、1993年)収録]
- ある夏の手記から『大調和』6、9月1日[「ある夏の手記より」と改題『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]
- 友人芥川の追憶[「芥川氏の人と芸術」]『文芸春秋』5-9、9月1日[『旧友芥川龍之介』(朝日新聞社、1949年)、『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)、福田恒存編『芥川龍之介研究』(新潮社、1957年)、『近代作家研究アルバム 芥川龍之介』(筑摩書房、1964年)、『芥川龍之介全集 別巻』(筑摩書房、1971年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)、関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第4巻』(日本図書センター、1993年)、『芥川追想』<岩波文庫>(岩波書店、2017年)収録]
- 近く刊行の芥川龍之介全集『大阪毎日新聞』9月15日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版Ⅲ』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
- 普選の第一印象『大阪毎日新聞』9月28～30日、10月1～3日
- 文化現象の地理的認識—その一般的基礎について—『経済論叢』25-4、10月1日
- 傍聴人覚え書『法律春秋』3-10、10月1日
- 大都市人民の政治的関心『大大阪』3-11、11月1日

1928(昭和3)年

- 型について『経済論叢』26-1、1月1日[「型による認識」と改題、『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]
- 或る日の訪問客『同志社新聞』17、1月17日
- 復活祭のころ[「読物三篇」]『経済往来』3-2、2月1日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]
- 芸術的観照における内面と外面『改造』10-7、7月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]
- 法律の見地より観たる範型の概念『法学論叢』20-1、7月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]
- ヘーゲルによる自然法学批判について—型の理論との連間におけるヘーゲルの法律哲学の方法の考察『法学論叢』20-5、6、21-1、3、11月1日、12月1日、**1929年**1月1日、3月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

1929(昭和4)年

- 人口統制の権義『大阪毎日新聞』3月10、12～16日
- 世界社会の意識『大阪朝日新聞』5月12～19日
- 自然状態と法律状態—ホッブスの自然法学に関する一考察—『法学論叢』21-6、22-3、6月1日、9月1日

日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

1930(昭和5)年

法律意識における人格者概念『法学論叢』23-1、6、1月1日、6月1日[最後の節を独立させ「序説 人格者の概念の歴史について」と改題『法的人格者の理論』(弘文堂、1936年)収録]

イデオロギーとその雰囲気『大阪毎日新聞』1月4日

法的範疇としての人格者概念『法学論叢』24-1、3、6、7月1日、9月1日、12月1日[『法的人格者の理論』(弘文堂、1936年)収録]

1931(昭和6)年

民族文化における個性的なるもの『京都市教育』8-1、1月1日[『知性の視野』収録]

法律と法律価値との関係について『法学論叢』25-5、5月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

1932(昭和7)年

底冷え『文芸春秋』10-1、1月1日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

法の本質とその把握方法—(併せて)法と政治と国家との相関性について—『法学論叢』27-1、3、5、1月1日、3月1日、5月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

ゲエテのサン・シモン説批評のこぼ『現代学生新聞』10月25日【Ⅶ-(2)-30】[「ゲエテとサン・シモン派の社会思想」と改題『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

議会の公開性について『文芸春秋』10-13、12月1日

1933(昭和8)年

瀧川事件の経過から見た大学自治の問題『帝国大学新聞』483、6月5日[『京大事件』(岩波書店、1933年)、『現代史資料42 思想統制』(みすず書房、1976年)、『瀧川事件 記録と資料』(世界思想社、2001年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭瀧川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

七月の論壇【文化危機に備ふ 京大問題について、自由の保証 京大問題について、大学の史的考察 京大問題の諸批判、佐野・鍋山の転向「同志に告ぐる書」を読みて】『東京朝日新聞』6月28～30日、7月1日[大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭瀧川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

死して生きる途[「京大事件の真相と批判」]『改造』15-7、7月1日[『京大事件』(岩波書店、1933年)、『瀧川事件 記録と資料』(世界思想社、2001年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭瀧川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

刑法学における進歩的精神『中央公論』48-7、7月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭瀧川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

「解決案」に関する虚報を匡す『帝国大学新聞』489、7月10日[『京大事件』(岩波書店、1933年)、『瀧川事件 記録と資料』(世界思想社、2001年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

或る京大学生に送る書信『改造』15-8、8月1日[『京大事件』(岩波書店、1933年)、『瀧川事件 記録と資料』(世界思想社、2001年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

総長と教授と学生大衆『文芸春秋』11-8、8月1日[『京大事件』(岩波書店、1933年)、『瀧川事件 記録と資料』(世界思想社、2001年)、大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

論壇時評【1 自由の価値、2 非常時経済論、3 犯罪論と思想対策論、4 京大問題の種々相、5 非、非常時的論文】[「文芸」]『読売新聞』9月2、3、5～7日[大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録、「非、非常時的論文」の一節「肯定出来ぬ楚人冠氏の翻訳論」を「翻訳について」と改題『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

京大問題を記念するために『京都日出新聞[夕刊]』9月10日[大阪市立大学恒藤記念室編『恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭』(大阪市立大学大学史資料室、2012年)収録]

1934(昭和9)年

新春論壇時評『読売新聞』1月1、3、5、7日【1 非常時社会の再認識、2 日本精神と世界経済との交渉、3 国論者としての議会、4 非常時は奇跡を生まず】

握手[「学芸」]『大阪朝日新聞』1月22、23日

制度の本質について『法と経済』1-3、3月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

『法律哲学概論』[「読書頁」、書評：田中耕太郎著『法律哲学概論』]『東京朝日新聞』5月18日

土田杏村の社会哲学への方向『セルパン』40<土田杏村追悼号>、6月1日[『土田杏村とその時代』9、1968年9月20日に転載]

法の技術的理念と国際法社会『法と経済』2-5、11月1日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]

秋、思ひ出す人々『大阪朝日新聞』11月7～9日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

田中耕太郎博士の『世界法の理論』[「読書」]『大阪毎日新聞』11月7日

真理を愛し、自然を愛する者の生活—私の思ふ学生々活の理想—[「移転記念特別寄稿 学生生徒に寄する言葉」]『商海』[大阪商科大学学友会]82、12月20日

国際裁判と国際調停『大阪商科大学経済研究年報』6、12月25日

1935(昭和10)年

法の本質『公法雑誌』1-1～2-9、1月5日、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日、9月5日、10月5日、11月5日、12月5日、**1936年**1月5日、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日、9月5日[『法の本質』(岩波書店、1968年)刊]

京城帝国大学法学会論集「国家の研究・第一」[「著作紹介」]『公法雑誌』1-2、2月5日

大正の初めの頃 沢柳事件の追憶など『京都帝国大学新聞』219、4月16日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、

1948年)、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録
通常参拝者には祭神の明、不明は深き関心事ではない[「神社観を聴く」]『中外日報』4月24日
法的な人格者の原始的形態『法と経済』4-2、3、8月1日、9月1日[『法的な人格者の理論』(弘文堂、1936年)収録]

1936(昭和11)年

世界法の本質と其の社会的基礎『公法雑誌』5-2~5、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日[『法の基本問題』(岩波書店、1936年)収録]
道徳的人格と法的な人格『法と経済』5-3、4、3月1日、4月1日[『法的な人格者の理論』(弘文堂、1936年)収録]
内乱と他国の干渉『夕刊大阪』9月3、5、7日[『時代と思索』(甲文堂書店、1937年1月1日)収録]
法の主体としての民族と国家『法律時報』8-11、11月1日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
詩三篇【郊外、城東線にて、学園に題す】『大阪商大新聞』11月8日【VIII-(2)-51】[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録、「学園に題す」は『知性の視野』巻頭に収録]

1937(昭和12)年

「法の変動」=異彩を放つ栗生氏の原著[書評：栗生武夫著『法の変動』(岩波書店、1937年)]『帝国大学新聞』666、3月22日
経済哲学と其の課題『経済学雑誌』1-1、4月1日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
尾高教授『国家構造論』[「新刊批評」]『法律時報』9-4、4月1日
学生生活と読書『大阪朝日新聞[京都版]』5月26日
新ヘーゲル主義の法律哲学の一批判—法的主体性の問題を中心として—『公法雑誌』3-7、7月5日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
革新原理としての全体主義に就いて『京都帝国大学新聞』265、7月5日
正義の本質について『法と経済』8-3、4、9月1日、10月1日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
事変への関心とその学問的理解『大阪朝日新聞[京都版]』10月6日
行詰りの雑誌編輯へ事変が齎した生彩[京都帝国大学・同志社大学・立命館大学の学生との討論会]『大阪朝日新聞[京都版]』10月6日
[「カレントブックス」]『帝国大学新聞』689、10月11日
学界本年の回顧と明年への新展望『大阪朝日新聞[京都版]』12月8日[座談会：臼井二尚、末川博、蜷川虎三、八木芳之助]
日本精神の把握 明春は支那の正確な認識へ[「カレッジセクション 戦時体制の線に沿うて進んだ一年 自然科学界と思想界の一九三七年を回顧 思想界」]『大阪毎日新聞[京都版]』、12月16日【VII-(1)-9】

1938(昭和13)年

- 英国人と米国人『夕刊大阪』2月1～3日【Ⅷ-(2)-57～59】
- 国家の全体性について『経済学雑誌』2-4、5、3-3、4月1日、5月1日、6月1日、9月1日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 社会契約説と社会連帯説—法の基礎理論としての両者の対照—『公法雑誌』4-4、9、10、4月5日、5月5日、6月5日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 新入学生におくる『大阪朝日新聞[京都版]』4月13日
- 高柳賢三氏著『独裁政と法律思想』[「読書」]『東京朝日新聞』7月11日
- 高柳賢三著『独裁政と法律思想』[「ブック・レビュー」]『大阪朝日新聞』7月25日
- 大文字の夜『洛味』4-3、8月5日[宮崎小次郎編『京に田舎あり』(晃文社、1942年5月5日)収録]
- 牧野教授還暦記念祝賀法理論集[「新刊紹介」]『法学協会雑誌』56-10、10月1日
- 生活秩序としての法の認識『法と経済』10-5、6、11月1日、12月1日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
- 東亜の一体性について[「気流塔」]『世界週刊』1-26、11月5日
- 書物と昔の人『帝国大学新聞』743、11月30日[『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]
- 寄宿舎生活をかへりみる[「特別寄稿」]『京都帝国大学寄宿舎舎誌』5、12月10日【Ⅰ-5-⑧】

1939(昭和14)年

- 自由経済法と統制経済法『経済学雑誌』4-4、4月1日
- 学問のすすめ 学生時代の学問の意義『京都帝国大学新聞』294、4月20日
- 世界苦を克服する者『国際公論』1、5月5日【Ⅰ-6-①】
- 草むらを見まもる[「随筆」]『文人』[立命館大学文学会]6月27日【Ⅰ-9-①】
- 歴史法学と歴史派経済学『経済学雑誌』5-2、8月1日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 統制経済法について『公法雑誌』5-9～12、6-1～12、9月5日、10月5日、11月5日、12月5日、1940年1月5日、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日、9月5日、10月5日

1940(昭和15)年

- 日本的性格【(上)実践的文化面こそ法の使命、(下)二つの飛躍—大化と明治の革新】[「学芸」]『東京日日新聞』1月10、11日
- 法の規範的性格『法と経済』13-6、6月1日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
- 新興文化の方向—欧州文化の転換[「学芸」]『大阪毎日新聞』6月23、25、27日
- *国内革新を語る 指導階級の実践通し日本独自の權威を創造—理論よりも実行方法、掲載紙未詳、6月29日【Ⅷ-(1)-15】

1941(昭和 16)年

文化の包括的概念と局限的概念『経済学雑誌』8-1、3、1月1日、3月1日[『型による認識』(勁草書房、1950年)収録]

法と倫理『公法雑誌』7-3～6、7、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]

道徳的義務と法的義務—道徳と法との関係についてのカントの学説の検討—『公法雑誌』7-10、11、8-1、5、9、10月5日、11月5日、1942年1月5日、5月5日、9月5日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]

家族制度論[「羅針盤」]『大阪毎日新聞[夕刊]』11月7日

1942(昭和 17)年

法の基本的機能について『経済学雑誌』10-5、5月1日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]

法における倫理的契機と技術的契機『法律時報』14-10、15-1、2、4、10、10月1日、1943年1月1日、2月1日、4月1日、10月1日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]

1943(昭和 18)年

国際法社会の構造及び性格について『公法雑誌』9-8、10、8月30日、10月20日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]

1944(昭和 19)年

わが国における近代法律文化—この主題についての序説的考察—『経済学雑誌』14-3、3月1日

1946(昭和 21)年

ゲエテのサン・シモン説批評の言葉『教養』1-1、1月25日【I-59】[『現代学生新聞』1932年10月25日から転載、「ゲーテとサン・シモン派の社会思想」と改題『復活祭のころ』(朝日新聞社、1948年)収録]

神話と歴史『[大阪]朝日新聞』2月9、12～15日[座談会：原随円、西田、直二郎、西谷啓治、那波利貞、梅原末治、魚澄惣五郎、高坂正顕、宮崎市定]

国家の何たるかに就て『講演文化』4、2月15日

法と自由『世界』4、4月1日

総選挙の肇国的意義『大阪時事新報』4月4日

国際平和機構の思想的基礎『中央公論』61-5、5月1日

新しき大阪市の建設目標[「人民評論」]『夕刊新大阪』89、5月4日

戦争犯罪の問題『中外日報』5月17日<<K>>

民主政治の実現『文芸春秋』24-4、6月1日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)収録]

新しい日本の黎明期に[「都論壇」]『都新聞』6月1日

- 経済安定本部の発足[「都論壇」]『都新聞』6月19日
- 僧院生活と禅堂生活『中外日報』6月21日<<K>>
- 憲法論議は自由であれ『中外日報』6月29日<<K>>
- わが国に於ける法律学と哲学との交渉(一)『法学論叢』52-1、7月1日
- 主権のありかの問題[「都論壇」]『都新聞』7月4日
- 世界国家建設への道程『学園新聞』9、7月11日
- 法の観点から見た戦争犯罪批判[「文化」]『[大阪]毎日新聞』7月15日
- 純情の交流ー日本再建の直道『中外日報』7月27日<<K>>
- 世界国家の問題『婦人朝日』1-7、8月1日
- 大正を中心とした思想界の追憶『世紀』1-3、8月15日[座談会：新村出、高田保馬、森暢、山根徳太郎]
【I-7-③】
- 法律と合理的精神『法律文化』1-2、8月15日
- 共産党を語るー共産党批判ー『時論』1-8・9、9月1日[座談会：末川博、瀧川幸辰、名和統一、加賀耿次]
- 芸術的文化の民主化について『文化展望』1-4、9月1日
- 日本の国体の運命について『中外日報』9月6日<<K・T>>
- 石の感触『洛味』1、9月10日[「石の感覚」と改題、『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
- 交戦権の放棄『中外日報』9月17、18、20、21日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)収録]
- 京都の秋をかざるもの『夕刊京都』9月18~20日
- [「新憲法 私はかく思ふ」]『夕刊京都』9月28日
- 法の革新と道徳の進展『改造』27-10、11、10月1日、11月1日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)収録]
- 天皇の象徴的地位について『世界』10~12、10月1日、11月1日、12月1日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)、久野収・神島二郎編『『天皇制』論集』(三一書房、1974年)収録]
- ゼネストと国民の態度『中外日報』10月8日<<K・T>>
- *国体とは何ぞや『日本輿論新聞』10月12日
- 芸術的文化における民主的精神[「文化評論」]『思索』3、10月25日
- *改正憲法と経済生活『農業経済新聞』11月3日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)収録]
- 経済の法的秩序づけ“民主”に“社会”の色彩加味[「新憲法の経済的意義」]『[大阪]産業経済新聞』11月4日
- 創刊に寄せる喜びと希望の言葉『大阪商大新聞』1、11月15日[『「大阪市大新聞」セレクト縮刷版』(2006年)収録]
- 照明文化の復興[「都論壇」]『都新聞』11月19日
- 仏教図書館と仏教美術館『中外日報』11月26日<<K・T>>
- 宗教団体の現代的使命『中外日報』12月18日<<K・T>>

民衆の為の民主的教育[「都論壇」]『都新聞』12月18日

こけの魅力[「文化」]『九州タイムズ』12月19日

1947(昭和22)年

学生層の思想的動きをかえりみる『学園新聞』24、1月1日[「学生層の思想的動きについて」と改題『知性の視野』収録]

十年後の京都是如何にあるべきか?『きょうと』2、1月1日

復活再刊のこけ『経済学雑誌』16-1、1月1日

世界史の審判と人間による審判『経済学雑誌』16-1、1月1日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]

改正憲法の革命的意義[講演速記於大阪援護会館、文責在記者]『講演』2-1、1月1日

地方文化のありかた『四国春秋』2-1、1月1日[『知性の視野』収録]

改正憲法の革命的性格『時論』2-1、1月1日[『新憲法と民主主義』(岩波書店、1947年)、『戦後思想の出發』<戦後日本思想大系 1>(筑摩書房、1968年)収録]

[「昭和二十二年に望むこと(アンケート)】『人間』2-1、1月1日

一九四七年に寄せる希望と期待『中外日報』1月1、3日

法律体系革新の第一段階—ヒューマニズムと合理的精神と—[「特輯・回顧と展望・法律」]『文化展望』2-7、1月1日

市長公選の目標[「都論壇」]『都新聞』1月6日

改正憲法のゑがく国家像『法律文化』2-1、2、3・4・5、1月15日、2月15日、8月15日

政変劇紙上対談『大阪時事新報』1月21日

邪教の根絶『中外日報』1月24日<<K・T>>

*労働組合における指導者への期待『労働新聞』1月24日

基督教と社会基層『中外日報』2月1日[「キリスト教と社会基層」と改題『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]

ひとしく教育を受ける権利[「都論壇」]『都新聞』2月8日

教育と教育制度[「人民評論」]『夕刊新大阪』370、2月11日

昭和を中心とした思想界の追憶『世紀』2-1、2月25日[座談会：高田保馬、重松俊明、山根徳太郎、上田堪一郎]

政党と人民『政界ジープ』2-3、3月1日

ゼネストのあの熱意で不満の解決を”一票”に託そう[「民主選挙ABC」]『[大阪]朝日新聞』3月7日

新憲法の民主的性格『旭影』4月1日【I-7-⑤】

京都市長には首相級の大物[「選挙にこうした人を」]『都新聞』4月1日

市民が心から信頼する市長[「都論壇」]『都新聞』4月4日

新入生に与う『学園新聞』33、4月21日

- 日本の現状と教育の刷新『中外日報』4月29日<<K・T>>
- 芥川龍之介のことなど『智慧』2-1~4、6、3-1、2、4、5、5月1、25日、8月1日、9月1日、12月1日、
1948年1月1日、2月1日、6月25日、7月25日[『旧友芥川龍之介』(朝日新聞社、1949年)収録]
- 新憲法の理念的及び事実的基礎『中外日報』5月3、6、8、10、13日
- 新憲法のもとに生きるよろこび[「都論壇」]『都新聞』5月3日
- 精神主義と科学的反省『中外日報』5月6日<<K・T>>
- 転機に立つ労組『[大阪]毎日新聞』5月6、7、9日[座談会：渡辺克、谷口清、中村正雄、前田種男]
- 信条主義を排す『中外日報』5月10日<<KT>>
- 教育の要諦『中外日報』5月13日<<K・T>>
- *民主主義とマキアヴェルリズム『龍谷学園新聞』5月25日
- 新首相に学ぶ『中外日報』5月27日<<K・T>>
- 迎合でなく真の助力を『中外日報』5月29日<<K・T>>
- 新憲法と主権『あをぞら』7、8、5月30日、8月15日
- 法律学革新のために 理論的基礎の究明[書評：尾高朝雄著『法の究極にあるもの』]『日本読書新聞』395、
6月4日
- 新市長に望む『大阪人』1-2、6月15日
- 政治革命と精神革命[「中日評論」]『中部日本新聞』6月23日
- 片山内閣に望む『中外日報』7月1日<<K・T>>
- 人間天皇『新世界』2-7、7月10日 **【Ⅷ-(26)-3】**
- 新英雄主義『中外日報』8月7日<<K・T>>
- 対立する二傾向 時代的背景の分析 峯村光郎著近代法思想史[「書評」]『三田新聞』569、8月10日
- 教員組合の存在意義[「中日評論」]『中部日本新聞』8月11日
- 最明確な事実『中外日報』8月19日<<K・T>>
- 世界における法と人間『季刊法律学』1、9月1日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 生活不安について『地上』1-5、9月1日
- 賛美歌伝道『中外日報』9月13日<<K・T>>
- 秋が来た『中外日報』9月20日<<KT>>
- 日本の基督教の特殊性『中外日報』9月23日<<KT>>
- Nippongo Kaizen eno Daiippo『Saiensu』1-2、9月25日
- 教勢不振の根源『中外日報』9月27日<<KT>>
- デモクラシーと少年教育『子供と社会』2、9月30日
- 世界平和と女性の立場—世界と女性—『新女苑』11-10、10月1日
- 新しい民法と家庭生活『ら・ふあむ』10月15日 **【Ⅷ-(26)-5】**

世界政治の展望について[「都論壇」]『都新聞』10月17日
二つの世界を結びつける力[「中日評論」]『中部日本新聞』10月20日
出版界あれこれ『サンデー毎日』26-48、11月16日[対談：田所武治]
工場ライブラリー[「随筆」]『工業評論』33-11、12月1日
政治の倫理と政治の現実[「中日評論」]『中部日本新聞』12月1日

1948(昭和23)年

民法改正と家族生活[講演速記(於大阪毎日会館)、文責在記者]『講演速報』2-1、1月1日
二つの国家群『新世界新聞』1月1日
つのる世界不安と一九四八年の展望『中外日報』1月1、3、6、8、10日
思索のすがた『文芸春秋』26-1、1月1日
1948年の学会展望『都新聞』1月4日[対談：湯川秀樹]
日本の民主化と新円階級存在[「都論壇」]『都新聞』1月5日
政治の思想的貧困[「日曜評論」]『京都日日新聞』1月12日
楽しい散歩道『エトアール』1月25日【Ⅷ-(26)-7】
小泉八雲の旧居を訪れて『ユマニテ』1、2月1日[「ヘルンの旧居を訪れて」と改題、宍倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]
両頭の蛇[「中日評論」]『中部日本新聞』2月9日
次期政権を語る『京都日日新聞』2月12日[紙上座談会：佐々木惣一、瀧川幸辰、末川博]
晩秋のハイデルベルクから『自由文化』3-1、2月15日
卵は立つ『エコノミスト』26-6、2月21日
国語に対する愛情について[「文化特集」]『京一中新聞』9、2月
孤独の八十翁『中外日報』3月27日
民族的理想と青年[「日曜評壇」]『西日本新聞』3月28日
新学制の実施と教師の再教育[「中日評論」]『中部日本新聞』3月29日
京都第一の景勝地の解放[「都論壇」]『都新聞』3月29日
日本社会の構造—根本的変革は如何にすべきか—[3月1日講演於大阪朝日会館]『講演』3-4、4月1日
青春と学究の調和を[「持て矜持とモラル 新しき門出に寄せて」]『学園新聞』74、4月12日
*終戦後の労働運動『大阪大学新聞』4月25日
世界平和と新憲法『[大阪朝日新聞]』5月3日[『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
世界平和への道「戦争放棄」の理想貫徹へ『朝日新聞』5月3日
新憲法はどう成長したか『京都新聞』5月3日[対談：岩淵辰雄]
金銭や権力に屈せず学者の生涯を全うしたスピノザ[「わたくしのすきな人」]『毎日小学生新聞』5月5日

- 「わたくしのすきな人」と題して『現代随想全集 27』（東京創元社、1955年）収録]
- 我々は自由を獲得したか[講演速記(於大阪毎日会館)、文責在記者]『講演速報』2-10、5月15日
- 日本社会の構造[講演速記(於大阪朝日会館)、文責在記者]『講演通信』28、5月25日
- H・ラスキ教授へ 世論の方向と内容の監視を—世界平和確立の重大任務『日本読書新聞』444、6月2日
- 一つの世界と二つの世界[「中日評論」]『中部日本新聞』6月7日
- 日本社会の構造『あさひかげ』3-3、6月20日
- 日本社会の封建性[6月18日講演(於大阪府立図書館)]『時事講演』3-13・14、7月25日
- 地方政治の民主化[「特別寄稿」]『京都新聞』8月1日
- 国家公務員法改正の問題[「日曜論壇」]『神戸新聞』8月1日
- 我々は自由を獲得したか『同盟時報』47・48、8月1日
- ポツダム宣言発表三周年をむかえて[「中日評論」]『中部日本新聞』8月2、3日
- 天皇制存廃の問題[「科学」]『読売新聞』8月15日[読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』（国民教育社、1950年）収録]
- 国家と労働組合[「中日評論」]『中部日本新聞』8月23、24日
- 立法における洞察力の限界『都新聞』8月23日
- 国家と公務員の労働組合[「百雑碎」]『講演時報』564・565、8月25日
- 女性の独立[巻頭言]『女性改造』3-9、9月1日
- 世界秩序の再建と国際連合の存在[巻頭言]『法律文化』3-9、9月15日
- 学生時代の菊池寛『文芸春秋』26-10、10月1日[『逸話に生きる菊池寛』（非売品、1987年10月20日）抄録]
- 新聞と経済『[大阪]産業経済新聞』10月2日
- 基本的人権と地方公共団体[「中日評論」]『中部日本新聞』10月4日
- 新聞週間をむかえて—国語改革についての感想—[「都論壇」]『都新聞』10月7日
- 庭園と庭園美『手帖』4、11月5日
- 世界人権宣言について[「中日評論」]『中部日本新聞』12月6日
- 米大審院の立場[「日曜随想」]『神戸新聞』12月12日

1949(昭和24)年

- 学校教育革新の二つの方向[「都論壇」]『都新聞』1月4日
- 新制大学における法学教育について[巻頭言]『法律文化』4-1、1月15日
- 法体系の改造と法学の革新『法律文化』4-1、1月15日
- 基本的人権について[人権擁護講演会講演要旨]『みおつくし』2-1、1月15日

- 大学教育の展望 光明さし初める年 悪影響及ぼす経済的困窮『夕刊京都』1月16日
- 経済九原則と政治の安定[「百雑碎」]『講演時報』580、1月25日
- 国会は一步前進するか[「中日評論」]『中部日本新聞』2月21日
- 国家の本質について[公開講演要旨「経済学研究報告」]『人文』3-1、3月1日
- 近畿地方法政部会報告[「ユネスコ発表の平和声明に関する各部会報告」]『世界』39、3月1日[田畑忍、末川博、沼田稲次郎、磯村哲、前芝確三、岡本清一、森義宣、田畑茂二郎]
- 平和問題討議会議事録『世界』39、3月1日[1948年12月12日討議会：安倍能成、清水幾太郎、仁科芳雄、蟬山政道、羽仁五郎、末川博、大内兵衛、都留重人、川島武宜、丸山真男、南博、渡辺慧、桑原武夫、青山秀夫、宮城音弥、沼田稲次郎、脇村義太郎、富山小太郎、丘英通、磯田進、和辻哲郎、矢内原忠雄、田畑茂二郎、新村猛、宮原誠一、中野好夫、鶴見和子、名和統一、鈴木大拙]
- 議会政治の反省『中央公論』64-3、3月1日
- [「執筆者通信」]『日本読書新聞』481、3月9日
- [「ハガキ回答」]『鋼輪』17、4月4日
- 公園らしい公園をもっていない京都[「都論壇」]『都新聞』4月9日
- 創刊の辞にかえて 市大新聞のために『大阪市大新聞』1、4月25日
- 戦争放棄の問題『世界』41、42、5月1日、6月1日 [『憲法問題—その解決の基準は何か—』(岩波書店、1964年)、『日本における国防論説 その4』(防衛研修所、1966年)、井上ひさし・樋口陽一編『『世界』憲法論文選』(岩波書店、2006年)収録]
- 民族主義の鼓吹に伴う危険性[「中日評論」]『中部日本新聞』5月23日
- 法社会学の諸傾向—法社会学の理論の歴史的発展とその諸傾向—『季刊法律学』6、7、5月25日、10月15日[『哲学と法学』(岩波書店、1969年)収録]
- 民主的警察制度とヒューマニズムの精神『公安思潮』1-1、5月25日
- 留保つき国連加入 永久中立成立のために[「平和日本はどこへ行く」]『読売新聞』5月27日[読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』(国民教育社、1950年)収録]
- *大阪商科大学の歴史と大阪市立大学の開設『大阪商科大学同窓会報』7月1日
- ジュリヤとその夫『平安』15-7、7月15日
- 国際政治と国内政治[巻頭言]『法律文化』4-5・6、7月15日
- 国際法と国際政治『法哲学四季報』3、8月5日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 松の緑りに救はれた話『ETOILE』6、8月15日
- 九月二日を迎える—日本の現実を直視しよう—[「都論壇」]『都新聞』9月2日
- 正しい愛国心について『郵政』1-2、9月5日
- 大阪人と大阪[「市民評論」]『大阪人』3-10、10月1日
- 私の読書遍歴 清新な想像と感情の世界 自然主義文学に親しんだ少年のころ『日本読書新聞』514、10月26日[日本読書新聞編『私の読書遍歴』(黎明書房、1952年)、『学生と読書』<現代学生講座 3>(河出書房、1956年8月31日)収録]
- 平和日本の立場[「中日評論」]『中部日本新聞』11月21日

法学学の学問的価値について[巻頭言]『法律文化』4・11・12、12月1日

中学生芥川龍之介の作品『図書』[復刊]2、12月12日

1950(昭和25)年

市立大学の構想『大阪人』4・1～3、1月1日、2月1日、3月1日

*正常な講和への期待『都新聞』1月6日

一九五〇年を迎える新制大学[「今年の学園」]『新日本新聞』1月8日

年頭の辞 研究、学問の自由確保を念願『大阪市大新聞』7、1月25日

京都学派を語る－法律学の方法論としての課題－『法律時報』22・2、2月1日[座談会：浅井清信、石本雅男、磯村哲、末川博、細野武男、宮内裕]

戦争の放棄と自衛権の問題[「中日評論」]『中部日本新聞』2月13日

戦争放棄の条項と安全保障の問題『改造』31・4、4月1日[『安保体制論』<文献選集日本国憲法14>(三省堂、1978年)収録]

対日講和の方式と安全保障の形態『世界』52、4月1日

新制大学における法学教育について『法律時報』22・4、4月1日

書巻の気をいづくしむ心[「ブックガイド特集」]『[大阪]朝日新聞』4月6日

外国領空における軍用航空機の飛行[「中日評論」]『中部日本新聞』4月17日

“新教育を語る”『教育月報』14、4月25日[4月7日対談：坂東遼次(大阪市教育長)]

小泉八雲と隠岐の国『文芸春秋』28・6、5月1日

戦争放棄と日本の安全保障『郵政』2・5、5月1日

憲法に盛られた夢のいろいろ『毎日新聞』5月2日[「憲法に盛られた夢」と改題、『現代随想全集27』(東京創元社、1955年)収録]

対日講和の核心『法律文化』5・3・4、5月10日[座談会：末川博、田畑茂二郎、松井清、前芝確三]

わたくしたちの世界 東山清談『洛味』4、5月15日[座談会：武者小路実篤、湯浅八郎]

国際平和と新憲法『月刊労働』2・5・6、5月20日

新しい性格をもつ戦争のいろいろ[「中日評論」]『中部日本新聞』8月21日

消防の文化的意義『大阪消防』1・7、9月10日

[インタビュー記事「100 People 100 Hopes」]中の談『The Mainich』9月16日

新聞と声なき民衆－新聞週間に寄せて－[「都論壇」]『都新聞』10月2日

[「アンケート わが家の本棚 家中みんなで読んだ本」]『日本読書新聞』566、11月1日

大阪商大創立七十周年を迎えて『大阪市大新聞』14、11月15日

学園に題す『大阪市大新聞』14、11月15日

社会科と道徳教育[「中日評論」]『中部日本新聞』12月4日

1951(昭和 26)年

- 学生・教授・学問『エコノミスト』29-2、1月11日[座談会：末川博、横山五市、小林英生]
- 平和の希望を捨てず堅実な歩調で進め[年頭の辞]『大阪市大新聞』15、1月15日
- 世界人権宣言とユネスコ[1月1日於大丸水曜クラブ、文責在記者]『講演通信』60、2月1日
- 無限定な戦争の放棄 再軍備は憲法違反である[「どうなる？日本の再軍備」]『一橋新聞』447、2月5日
- 私の信条『世界』63、3月1日 [『私の信条 続』<岩波新書>(岩波書店、1951年12月5日)、『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
- 憲法と再軍備の問題『展望』63、3月1日
- 入学試験期の感想[「中日評論」]『中部日本新聞』3月5日
- 法価値の学的考察[書評：ラードブルッフ著(田中耕太郎訳)『法哲学』(小山書店、1951年)]『日本読書新聞』583、3月7日
- 我国の元首は誰か『釣深』5、3月20日 【I-9④】
- 自衛権の問題[「戦争か平和か」]『教育月報』24、3月25日
- 大阪につくって欲しかった「公園の構想」『大阪人』5-4、4月1日[「大阪に造って欲しかった公園の構想」と改題『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
- 権威に服さず批判力もて 入学式学長訓示『大阪市大新聞』17、4月15日[『「大阪市大新聞」セレクト縮刷版』(2006年)収録]
- 選挙と家庭[「土曜随想」]『[大阪]毎日新聞』4月22日
- 正しい愛国心について『京都農業』1-1、5月1日 【I-73】
- 大阪と京都の間『文芸春秋』29-7、5月1日
- 鴨川西岸の風致[「都論壇」]『都新聞』5月1日
- 憲法と国民道徳『平安』17-6、6月1日 【I-75】
- 追放解除の効果と意義[「中日評論」]『中部日本新聞』6月4日
- 法体系と法体制と法秩序『季刊法律学』10、12、6月10日、1952年5月20日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
- 我国には元首が存在するか[「法学ノート」]『季刊法律学』10、6月10日
- 憲法と国民道徳『あおぞら』4-6、6月20日 【I-74】
- 朝のラジオ『放送文化』6-7、7月1日
- 基本的人権について『大阪消防』2-7、8、7月10日、8月10日
- 難問、後に残す[「講和草案をどう見る？」]『[大阪]朝日新聞』7月12日
- イラン問題の経過とアヘン戦争回顧[「中日評論」]『中部日本新聞』7月23日
- 松江[「故郷に夏ありき」]『[大阪]毎日新聞[夕刊]』8月14日
- 七十年の歴史を回顧して『大阪商科大学同窓会報』5、8月20日 【I-137】
- 国会の解散は当然[「私は講和をこう見る」]『学園新聞』612・613、8月20日

講和と安全保障『公民講座』283、9月1日

対立の激化をもたらすー真の和解と信頼に努力[「特集 世界平和と転機に立つ日本 対日講和条約調印にあたって」]『大阪市大新聞』22、9月12日

*憲法と再軍備との関係『経済春秋』[3-10]、10月1日

和解の講和条約ということについて[「全面講和論者は単独講和締結に関してどう考えどう処するか」]『世界』70、10月1日

新聞の自由と責任[「都論壇」]『都新聞』10月2日

巻頭のことば『季刊法律学』11、10月30日

国家と社会『大阪消防』2-11、12、11月10日、12月10日

公海自由の原則 日米加漁業条約[「中日評論」]『中部日本新聞』11月19日

講和成立後の日本の在りかた『海上労働』4-11、11月25日

1952(昭和27)年

独立日本の政治への期待[「都論壇」]『都新聞』1月2日

国際社会と公海の自由『ジュリスト』2、1月15日

背骨の有る人をつくる教育[「中日評論」]『中部日本新聞』2月25日

日本民族の更生の途『世界』75、3月1日[『憲法問題ーその解決の基準は何かー』(岩波書店、1964年)収録]

平和への明確な指針 国際裁判所に強制管理権をと主張[書評：ハンス・ケルゼン著(著鶴飼信成)訳『法と国家』(東京大学出版会、1952年)]『日本読書新聞』635、3月12日

憲法と新しい道徳基準ー日本民族の更生の途(二)『世界』76、4月1日[『憲法問題ーその解決の基準は何かー』(岩波書店、1964年)収録]

法律時評【国会の条約審議権、行政協定の締結と憲法第七十三条、特別保安法案について】『法律時報』24-4、4月1日

独立後の日本文化 偏狭な独善を戒む[「文化」]『大阪新聞』4月29日

虚偽と違法性が除去されねばならぬ[「法学者はどう考えるか」]『世界』77、5月1日

読書と散歩そのほか[「付録 読書と人生」]『中央公論』67-8、7月1日

学徒生活の思い出『同盟時報』114、115、7月1日、8月1日

二つの対日条約解説書[書評：国際法学会編『平和条約の総合研究』(有斐閣、1952年)、毎日新聞社編『対日平和条約』(毎日新聞社、1952年)]『日本読書新聞』653、7月16日

有益な会合だ『学園新聞』662、9月15日

[インタビュー記事「生活と意見 独創的研究は難しい 大阪に多い入試頼み込み」中の談]『夕刊新大阪』9月19日

よい教育委を作るために『[大阪]朝日新聞[夕刊]』9月21日[対談：村山りう]

法の革新と道徳の進展『改造』27-10、11、10月1日、11月1日

平和憲法の再確認へ[「総選挙に対する意見・批判・希望」]『世界』82、10月1日
[「読者通信」]『世界週報』33-29、10月11日
ある来訪者—大学入試の公明について—『学燈』5-11、11月1日
民主国家と地方自治『信州自治』5-11、11月1日
憲法について—国民の主権と基本的人権『婦人公論』36-11、11月1日
文化の日に寄せて 祖国文化の再認識『[大阪]産業経済新聞』11月3日
巻頭のことば—民主政治とマキアヴェルリズム—『季刊法律学』13、11月15日
戦後法学界の軌道『法律時報』24-12、12月1日[座談会：菊池勇夫、和田小次郎、磯村哲、内田力蔵、戒能通孝]

1953(昭和28)年

[「新春随想 今年はこれで行こう」]『大阪人』7-1、1月1日
憲法擁護の課題『警友』8-1、1月1日【I-11-③】
独立日本の目標と進路『[大阪]産業経済新聞』1月1日[『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
憲法擁護の課題『平安』19-1、1月1日【I-11-②】
学究生活の回顧『思想』343、344、1月5日、2月5日[『学究生活の思い出』(宝文館、1954年6月1日)、
『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
朝鮮休戦問題解決へのカギ[「中日評論」]『中部日本新聞』1月7日
朝鮮休戦問題解決へのカギ『西日本新聞[夕刊]』1月12日
台湾中立化解除と朝鮮戦乱の処理[「中日評論」]『中部日本新聞』2月15日
『条理』の戦乱解決を アジア的観点から批判[「月曜評壇」]『西日本新聞』2月16日
総選挙と女性『[大阪]朝日新聞』3月27日
法学の任務とその特色について『法律時報』25-4、4月1日
理想主義と物質主義 米国における二つの思想動向『中部日本新聞』4月19日
新議員への期待『[大阪]毎日新聞[夕刊]』4月19日
久米正雄著微笑苦随筆[「一枚書評」]『日本読書新聞』692、4月27日
[「平和の維持に関する意見・批判・希望」]『世界』89、5月1日
当選議員を監視せよ[「読者の会議室」]『[大阪]毎日新聞』5月1日
法哲学史の観点から見たケネーの自然法思想『季刊法律学』15、16、6月10日、11月10日[『哲学と法
学』(岩波書店、1969年)収録]
生き生きした叙述 宇野浩二著『芥川龍之介』を読んで『図書新聞』201、6月27日
団体行動権と公共福祉[「中日評論」]『中部日本新聞』7月19日
学生時代のことも[「わが青春手帳」]『大阪人』7-8、8月1日

夏期休暇と学生アルバイト[「学芸」]『神港新聞』8月7日
科学と平和『[大阪]朝日新聞』9月22日[座談会：M.レヴィ、R.P.ファインマン、P.O.レフディン、F.C. フランク、吉川幸次郎、末川博、塩尻公明]
楽焼の句[俳句3首]『京都』36、10月1日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
平和憲法と日本の運命『世界』94、10月1日[『憲法問題—その解決の基準は何か—』(岩波書店、1964年)収録]
読書と人生『弁論』63、10月1日
文化祭に思う『大阪市大新聞』43、10月25日
空爆と文化財保護の問題“ユネスコ条約”の無防備都市 奈良・京都は戦禍から安全か『[大阪]朝日新聞』11月7日

1954(昭和29)年

まず正しい方向へ[「今日の政治に望む」]『朝日新聞』1月1日(良くなる希望をかけ得ない[「今日の政治に望むアンケート」]『朝日新聞[西部版]』1月1日)
長期経済計画の要請と実現可能性『都新聞』1月1日
平和教育の課題[「中日評論」]『中部日本新聞』1月10日
平和教育の課題 時の権力者に左右されず『西日本新聞』2月13日
議会政治と政治道徳[「学芸」]『[大阪]毎日新聞』2月17日
*民主政治と耐乏の倫理『平安』3月1日
民主的議会政治の存在意義『大阪消防』5-3、3月10日
MSA協定と平和憲法『産業経済新聞』3月10日(MSA協定と憲法『[大阪]産業経済新聞』3月11日)
法律 近代法の精神『[NHK]教養大学』5-2、5月1日【I-86】
正しく生きる権利について—学園を去って行く若い人たちのために—『世界』101、5月1日
民主的議会政治の存在意義『保険評論』6-5、5月1日
憲法記念日に想う[「中日評論」]『中部日本新聞』5月3日
不正と汚職を排せ 憲法記念日に想う[「月曜評壇」]『西日本新聞』5月3日
暗い憲法記念日 国民の力で改憲阻止へ[「月曜評論」]『北海道新聞』5月3日
車中の読書[「生活随想」]『婦人之友』48-6、6月1日
京都学派罷り通る『文芸春秋』32-8、6月1日[座談会：末川博、桑原武夫]
国会の更生 議員も政府も反省せよ まず、“議会政治の在り方”認識『[大阪]朝日新聞』6月20日
第二保守政党の存在意義『西日本新聞』6月26日
解散決議に期待 第二保守政党の存在意義[「月曜評論」]『北海道新聞』6月28日
第二保守政党の存在意義『中部日本新聞』7月1日
車上[「読書三態」]『日本読書新聞』753、7月5日

- 島根[「郷土巡禮」]『週刊サンケイ』3-30、7月18日[対談：恒松安夫]
- 五十年後の京都の市街『洛味』46、7月25日
- 裁判官の独立と良心『季刊法律学』18、9月5日[座談会：末川博、毛利与一、佐伯千仞、大西芳雄、宮内裕]
- 現在の日本に元首があるか[「中日評論」]『中部日本新聞』9月20日
- 国家機関としての元首 新憲法下の日本にはなし[「月曜評論」]『北海道新聞』9月20日
- 家庭の自由『文芸春秋』32-15、10月1日
- 恒藤学長就任のあいさつ[談話]『大阪市大新聞』56、10月25日
- 日本の前途について—総会に於ける講演要旨—『[島根大学教育学部]同窓会誌』4、10月『文化講演集』(島根大学教育学部同窓会編・刊、1988年9月30日)収録]
- 死の灰と日本の安全保障 仮定攻撃よりも水爆から守れ[「中日評論」]『中部日本新聞』11月1日[『現代随想全集 27』(東京創元社、1955年)収録]
- 死の灰と安全保障 米に強硬な申入れ行え[「月曜評論」]『北海道新聞』11月1日
- 政治的独立への進路—平和問題談話会法律政治部会報告—『世界』108、12月1日
- 日本自立の政治的条件『世界』108、12月1日[討議：末川博、前芝確三、田畑忍、桑原武夫、名和統一、岡本清一、蟬山芳郎、松井清、岡倉古志郎、辻清明、田畑茂二郎、長濱正寿、奈良本辰也、松田道雄、黒田了一、磯村哲]
- 追憶『文芸』11-15[臨時増刊 芥川龍之介読本]、12月5日
- ガイガーの音消えず 一九五四年を送る言葉[「文化」]『大阪新聞』12月30日

1955(昭和30)年

- *警察官と教養への努力『あおぞら』1月1日
- 日本民主政治の進路[「論壇」、掲載紙未詳、1月1日 **【Ⅷ-(32)-28**]
- 三学長大いに語る『[大阪]読売新聞』1月4日[座談会：末川博、小林喜楽]
- 総選挙と世間の人気 理性的判断を忘れるな[「月曜評論」]『北海道新聞』1月31日
- 総選挙と世間の人気 感情の『人気』と理知の『世論』とのちがいが[「中日評論」]『中部日本新聞』2月14日
- 総選挙と憲法改正『国際新聞』2月26、27日[座談会：田畑忍、末川博]
- 新入生諸君を迎えて 大学の使命を理解せよ 人格的成長を期待『大阪市大新聞』63、4月25日
- 原水爆禁止要望は日本国民の責務『大阪市大新聞』63、4月25日
- 平和民主国家の宣言を聴いて 憲法を擁護する覚悟を固めよ[「中日評論」]『中部日本新聞』4月25日
- A・A会議に思う 平和民主国家の宣言を聞いて[「月曜評論」]『北海道新聞』4月25日
- 新しい大学生活に入る人々へ『知性』2-6、6月1日
- 憲法調査会法案の要綱を見て 憂慮すべき憲法改悪への意向[「中日評論」]『中部日本新聞』6月20日

憲法の危機 憲法調査会法案の要綱を見て[「月曜評論」]『北海道新聞』6月20日
法解釈学と価値判断『季刊法律学』19、20、22、7月15日、1956年4月5日、1957年2月5日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
立命館大学と私と『立命』[立命館大学校友会]12、7月25日【I-11-⑤】
原子力会議の意義[「中日評論」]『中部日本新聞』8月8日
原子力会議の意義 平和確保と人類の幸福増進に[「月曜評論」]『北海道新聞』8月8日
菊池寛と芥川龍之介 その思い出[「文化」]『大阪読売新聞』9月12日
新聞と社会情勢 望まれる『中立不羈』の報道[「中日評論」]『中部日本新聞』10月3日
[「日ソ交渉をどう思う」]『朝日新聞』10月10日
あの頃の下鴨『洛味』50、10月15日
人権は尊重されているか『[大阪]毎日新聞[夕刊]』12月9日[座談会：星智孝、武部さき子]

1956(昭和31)年

或る思い出『大阪市教職員互助組合報』20、1月1日【VII-(32)-50】
国の歩みと個人の歩み[「巻頭言」]『蛭雪時代』25-10、1月1日
「世界」についての感想[「『世界』の十年」]『世界』121、1月1日
年頭のごあいさつ『[大阪市立大学]学報』37、1月5日
私たち国民に課せられた反省と前進—一九五六年をむかえるに当って—『啓林』5-1、1月5日【I-11-⑥】
友情について『大阪市大新聞』76、1月10日
公共奉仕の法理について『なにわ』2月4日
ロードブルフの二著 ゆたかな学殖の所産『日本読書新聞』834、2月6日[書評：G・ロードブルッフ著(阿南成一訳)『法哲学入門』(弘文堂、1955年)、ロードブルッフ 著(尾高朝雄・碧海純一 訳)『法学入門』(創元社、1955年)]
法学の任務と特色『法学セミナー』1、2、4月1日、5月1日
改憲の企てと日本の将来—巻頭のことば—『季刊法律学』20、4月5日
教育の危機を憂ふ[談]『人類共栄新聞』4月5日【VII-(32)-52】
激動する政局『京都新聞』4月29、30日、5月1、2日[座談会：阿部真之助、大石義雄]
激動する政局『講演時報』830、5月1日[座談会：阿部真之助、大石義雄]
平和憲法を護ろう[インタビュー]『人類共栄新聞』5月5日【VII-(32)-58】
憲法と人権[「定点」]『新大阪』5月7日
今年度のはじめに思う『大阪市大新聞』83、5月10日
法学のまなびかた『法学セミナー』3、4、7～9、6月1日、7月1日、10月1日、11月1日、12月1日

私たちは憲法を守る 趣意『平和と民主主義』2、6月10日[連名：安部能成、大内兵衛、中野好夫、青野季吉、川端康成、丹羽文雄、阿部知二、上代たの、野上弥生子、伊藤整、末川博、平塚らいてふ、上原専禄、田畑忍、広津和郎、植村環、田辺元、務台理作、宇野浩二、湯川秀樹、梅原龍三郎、南原繁、吉川英治]

育英制度と公共の善意『育英通信』3、9月10日【Ⅷ(1)-5】

全学あげて参加をー大学祭など学長語るー[インタビュー]『大阪市大新聞』92、10月25日

新書本に望む[「日曜随想」]『神港新聞[夕刊]』11月11日

日ソ交渉と平和五原則[「自主外交に値するかー日ソ交渉の反省ー」]『世界』131、11月1日

1957(昭和32)年

ねずみ捕り『文芸春秋』35-1、1月1日

国連加盟と日本の進路『大阪消防』8-1、1月5日

国連における日本の立場『大阪市大新聞』96、1月10日

国連加盟と日本の立場 平和、自主外交、従属からの離脱を『平和と民主主義』21、1月10日

ごあいさつ『[大阪市立大学]学報』46、1月25日

一九五七年を迎えて『民法協ニュース』[民主法律協会]3、1月28日【Ⅷ(37)-4】

最近における国際法と国際政治との関係ー巻頭のことばー『季刊法律学』22、2月5日

国連加盟と日本の将来[「時流」]『同志社女子大学学生新聞』24、2月7日

街頭所見そのほか[短歌]『洛味』63、2月15日

前進への力強い刺戟 有斐閣版『法律学全集』[「今週の本棚」]『図書新聞』386、2月16日

第百号を祝す 市大新聞の今後の発展を期待『大阪市大新聞』100、4月10日

法学の現代的課題についてー巻頭のことばー『季刊法律学』24、5月10日

平和憲法と国民の真情ー憲法施行十周年におもうー『世界』138、6月1日 [『憲法問題ーその解決の基準は何かー』(岩波書店、1964年)収録]

司法試験制度の改正案について『法律時報』29-6、6月1日

国会解散を急げ 三悪追放真面目に徹底的に[「岸内閣に望む 岸首相」]『京都新聞』7月11日

[「新旧学長挨拶」]『[大阪市立大学]学報』52、10月25日

[「読書週間アンケート 良書と出版界への注文」]『中部日本新聞』10月27日

本学の学園生活を語るー新旧学長を囲む座談会ー『大阪市大新聞』111、11月1日[座談会：細谷雄二、遠家宣昭、佐々木毅、十和邦一]

「自然と文化」たえず冷静に歩め [「未来に生きる青年に告ぐ 恒藤学長退任記念講演会から」]『大阪市大新聞』112、11月15日

平和憲法と歴史的必然[本社三周年記念講演「平和憲法と日本の歴史」要約、文責在社]『大阪社会タイムス』11月19日【Ⅷ(37)】

法律ー一九五七年『法律時報』29-12、12月1日[座談会：末川博、磯村哲、潮見俊隆、山田幸男、戒能

通孝]

1958(昭和 33)年

- 懐しい中学時代 芥川龍之介とも遊ぶ[「ふるさとに寄せる」]『[大阪]朝日新聞[島根版]』1月7日
- 戦後日本の法と法思想について―巻頭のことば―『季刊法律学』25、1月15日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 法と道徳の問題について『法哲学年報 1957』3月30日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- 封建的な城下町[「都市展望 松江市」]『山陽新聞』4月16日
- 私の高校時代の英語『The Youth's Companion』13-2、5月1日
- 憲法と条約[「基本法セミナー」]『法学セミナー』26、5月1日
- 忍耐強く後押しを“目先”だけを見るな[「一票の力」]『京都新聞[夕刊]』5月20日
- 総選挙からみた革新陣営の今後『国際新聞』5月25日[座談会：末川博、井上清、田畑忍]
- あす開く“憲法問題研究会”第一回会合 恒藤博士に疑問点をきく『国際新聞』6月8日
- 塔のある風景『洛味』74、6月15日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
- 自殺したころ[「鬼才芥川龍之介の思い出」、談]『国際新聞』4587、7月25日
- 三つのふるさと『文芸春秋』36-10、9月1日
- 『土佐藩憲政思想成立史』高橋信司著[「私の推薦するもの」]『図書新聞』466、9月6日
- 民族について『大阪社会タイムス』9月12、19、26日、10月3日 **【Ⅷ(37)-29～32】**
- 詩と短歌『人文研究』9-8、9月25日[「詩三篇」(『大阪商大新聞』1935年11月8日)と「街頭所見そのほか」(『洛味』63、1957年2月15日)の転載]
- いかなる人が読書人か『週刊読書人』245、10月13日
- 三木清君の思い出[「南の風・北の風」]『新日本文学』13-11、11月1日
- 賀茂大橋付近 布の色彩に季節感 花やか河原の友禅染め『[大阪]朝日新聞[京都版]』11月6日 **【Ⅷ(37)-34】**
- 登院拒否まず当然[「変則国会に識者の意見」]『新潟日報』11月10日
- ある日の日記[「特別寄稿」]『紅檣』13、12月25日 **【Ⅰ-13-②】**[「墨田川を漕ぐ」と改題『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

1959(昭和 34)年

- 懸賞に当選[「はなしの七くさ」]『[大阪]朝日新聞[夕刊]』1月8日
- 憲法問題解決の基準『世界』159、3月1日[『憲法問題―その解決の基準は何か―』(岩波書店、1964年)収録]
- 法の精神について『民商法雑誌[創刊二十五周年記念特集号 私法学論集(下)]』39-4・5・6、4月10日[改訂版『私法学論集 民商法雑誌創刊二十五周年記念』(有斐閣、1960年4月10日)、『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]

純粹で誠実な判決『法律時報』31-5、4月25日

味覚のおもい出『あまカラ』94、6月1日[「ふるさとの味」と改題、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

日本は君主国か共和国か[「法令随筆」]『時の法令』317、6月3日

社会主義体制と刑事法—巻頭のことば—『季刊法律学』27、7月1日

洛中と洛外『洛味』85、7月25日

京都大学初期の先生たち『書齋の窓』70、71、8月1日、9月1日[5月19日座談会(於祇園中村楼):瀧川幸辰、末川博、新川正美]

*現代と現代の課題『現代』9月1日

真実と世論『京都新聞』10月1日[座談会:鳥養利三郎、吉川幸次郎、日高編集局長]

佐藤春夫著わが芥川龍之介像 人間・作家・心友 微妙な点まで真実の姿とらえる『週刊読書人』295、10月12日

安保条約改定と日本人の良識[「憂慮すべき安保改定交渉」]『世界』167、11月1日

都離れの静けさ 糺の森[「京都再見」]『京都新聞[夕刊]』11月26日

人権保障の法と人間尊重の道徳『自由と人権』9、12月2日 **【Ⅷ(37)-42】**

日本国憲法から見て[「安保読本」]『神戸新聞』12月3日

国民文化を推進する力 生きる喜びをあたえる[「文化」]『信濃毎日新聞』12月17日

国民文化を推進する力 清新な文化活動は政治を是正する『中国新聞』12月18日

1960(昭和35)年

最高裁判決の欠陥と矛盾『法律時報』32-2、1月15日

奈良を訪れて[「随感」]『京都新聞[夕刊]』1月17日

On Student Demonstrations[「Guest Column」]『The Japan Times』1月25日

読書への情熱[「随想」]『教育大阪』102、2月1日

平和憲法と最高裁の使命『世界』170、2月1日 [『憲法問題—その解決の基準は何か—』(岩波書店、1964年)収録]

京都の寒さ暑さ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』2月14日 [『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]

教育と理想 これからの学制と入試『京都新聞』3月1日[座談会:鳥養利三郎、相良惟一]

何がハネ上り学生を生んだか 恒藤博士に聴く『PTA新聞』4、3月10日 **【Ⅷ(37)-49】**

菊池寛のおもかげ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』3月13日

鴨川と高野川『東京と京都』112、4月1日

花の醍醐寺に思う[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月10日 [『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]

- 戦後における京都の進展『洛味』94、98、5月5日、9月5日
- 鴨川とセーヌ川[「随感」]『京都新聞[夕刊]』5月8日
- ひとりよがりの権力者[「随感」]『京都新聞』6月5日
- 平穏にアイクを迎えよ 各党話し合いで国会休会を『山陽新聞』6月13日
- アイク訪日と政局の打開 国会を休会してあたたかく歓迎[「月曜評論」]『西日本新聞』6月13日
- 国会を休会しあたたかく歓迎 アイク訪日と政局の打開『愛媛新聞』6月14日
- ある世捨て人の生涯[「随感」]『京都新聞[夕刊]』7月3日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
- 法の精神についての再論『法学雑誌』7-1、2、7月20日、9月30日[『法の精神』(岩波書店、1969年)収録]
- 真夏の京都の暑さ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』7月31日
- 黙々とハタ織る母[「母を語る」]『教育大阪』108、8月1日
- ナガサキヤ[「行きつけの店」]『甘辛春秋』108、8月5日
- 四十年振りの帰郷『島根県人』9、10、8月20日、11月5日【I-13-③、④】[「思い出の松江一人と風物一」と改題『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録、原題のまま、宍倉忠臣編『翡翠記』収録]
- 下鴨のデルタ地域[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月28日
- 憲法擁護のための座談会『大阪社会タイムス』262~264、266~268、273、9月21、28日、10月5、19、26日、11月2日、12月14日[座談会：田畑忍、黒田了一、一円一億、前芝確三、浅井清信、和田鶴藏、佐伯千仞、田畑盤門、藤垣武二、田村清臣]
- 純真な人間たち[「随感」]『京都新聞[夕刊]』9月25日
- 公共労働者の労働法上の地位—巻頭のことば—『季刊法律学』29、10月1日
- 明治期の道德教育[「随感」]『京都新聞[夕刊]』10月23日[『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]
- 真剣に選ばう施政者 ためされる国民の意識[「総選挙」]『京都新聞』10月29日
- 民主政治再建の原動力 各党の性格を透察しよう[「総選挙の争点」]『山陽新聞』11月7日
- 解散の原因考えよ 民主政治の再建[「総選挙の争点」]『愛媛新聞[夕刊]』11月8日
- 民主政治再建 貧富差増大の懸念 各党の性格見きわめよ[「私の政策批判」]『西日本新聞』11月8日
- 最高裁判官の国民審査とは[「茶の間の社会科」]『[大阪]読売新聞』11月18日
- 世界法とは何か[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月27日
- 持っている国と持っていない国[「随感」]『京都新聞[夕刊]』12月25日

1961(昭和36)年

- 平和願望の新世代 話し合いの広場を築こう『京都新聞』1月1、3、4日[座談会：鳥養利三郎、瀧川幸辰、平沢興、白石古京、日高編集局長]
- わが青春 寮生活に刺げき 芥川に接して文学を捨てる『[大阪]読売新聞』1月5日[「わが青春時代の生活」]

- と改題、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録
- ムードのムーブ化[「随感」]『京都新聞[夕刊]』1月29日
- 天使のすがたと天女の像[「随感」]『京都新聞[夕刊]』2月26日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
- 難聴の得失[「随感」]『京都新聞[夕刊]』3月26日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
- 国際理解教育[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月23日
- 一つの国に二つの国旗[「随感」]『京都新聞[夕刊]』5月21日
- レジャーを満喫する者たち[「随感」]『京都新聞[夕刊]』6月18日
- 植物園に緑陰を楽しむ『洛味』108、7月5日
- たいくつの感覚[「随感」]『京都新聞[夕刊]』7月16日[『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]
- 憲法の本質について—日本国憲法に即して見た法の精神—『法学雑誌』8-1、7月31日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
- アンバランスのあれこれに想う[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月13日
- 詠嘆調の京都と日常性の京都[「随感」]『京都新聞[夕刊]』9月10日
- 日本人の心のふるさと・京都『旅』35-10、10月1日
- 憲法をめぐる矛盾と相剋『法律時報』33-11、10月5日
- ある新設大学の教育方針[「随感」]『京都新聞[夕刊]』10月8日
- 永久不安を生んだ死の灰[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月5日
- 街路の散歩[「随感」]『京都新聞[夕刊]』12月3日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
- 永久不安の世界 死の灰はなくならぬ[「12月の論壇」]『読売新聞』12月3日[『大阪読売新聞』12月4日]
- 一九六二年への期待『小畑忠良後援会・会報』12月25日【Ⅷ(38)-16】
- 本社選定 1961年の10大ニュース『大阪毎日新聞』12月31日

1962(昭和37)年

- 年賀状を見て思う[「随感」]『京都新聞[夕刊]』1月7日
- 京都の交通問題[「随感」]『京都新聞[夕刊]』2月18日
- 文化都市とはどのような都市か[「随感」]『京都新聞[夕刊]』3月25日
- 京都から『そしある』33、4月1日【Ⅷ(38)-22】
- ラートブルフ著作集 10 心の旅路 深い興味をよぶ自伝 内面的生活をつぶさに語る『週刊読書人』422、4月23日
- 晩春のいなか道[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月29日
- 浦島太郎の思い出『洛味』118、5月5日

改憲ムードの現実性『世界』198、6月1日

第三の善意と各人の安全保障[「随感」]『京都新聞[夕刊]』6月3日[『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]

第三の善意と各人の安全保障[「随感」]『愛媛新聞[夕刊]』6月8日

三つの争点を見比べて[「参院選への提言」]『河北新聞』6月19日

「経済」「憲法」「外交」三つの争点をよく見比べよう[「参院選への提言」]『北国新聞[夕刊]』6月19日

経済、憲法、外交 三つの争点を見比べよう[「参院選への提言」]『愛媛新聞』6月21日

林屋辰三郎著京都 時代の流れのすがた “歴史と地域の結合関係”を追求する『週刊読書人』432、7月2日

書物のデパート[「随感」]『京都新聞[夕刊]』7月8日

倫理のいろは 人に迷惑をかけないために『PHP』171、8月1日

仏事と現代生活[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月12日[『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]

道路の近代化[「随感」]『京都新聞[夕刊]』9月16日

創刊のことば『市民生活』[大阪市政調査会]1、9月24日 **【Ⅷ(38)-32】**

大学自治の問題について『思想』459、10月5日

杞人の憂いに似ているけれど[「随感」]『京都新聞[夕刊]』10月21日

没我の心境[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月25日[『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]

二人の大学総長[「随感」]『京都新聞[夕刊]』12月23日

1963(昭和38)年

忘れえぬ人々 栗生武夫君の追憶『法律時報』35-1、1月1日

竹やぶの美しさ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』1月27日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

忘れえぬ人々 橋本文雄君の追憶『法律時報』35-2、2月1日

矢内原君のおもい出『図書』163、164、3月1日、4月1日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

忘れえぬ人々 加古祐二郎君の追悼『法律時報』35-3、4、3月1日、4月1日[加古祐二郎著『近代法の基礎構造』(日本評論社、1964年9月30日)収録]

憲法と宗教教育[「随感」]『京都新聞[夕刊]』3月3日

世論と世論調査[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月7日

忘れえぬ人々 淵 定君の追憶『法律時報』35-5、5月1日

雨の日にはびこる迷惑行為[「随感」]『京都新聞[夕刊]』5月19日

ミイラと不死の石造美術[「随感」]『京都新聞[夕刊]』6月23日

- 予言の真実性[「随感」]『京都新聞[夕刊]』7月28日
読書館の構想[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月25日
法と経済との関係について『経済論叢』92-3、9月1日[『法と道徳』(岩波書店、1969年)収録]
長すぎた裁判に反省を[「無罪判決こう思う」]『京都新聞[夕刊]』9月12日
京都に寄せる愛情『洛味』135、137、10月5日、12月5日
パンと米の飯[「随感」]『京都新聞[夕刊]』10月6日
松江駅 堀を舟で出迎えに[「ふるさとの駅」]『[大阪]毎日新聞[夕刊]』11月4日
ある日の無宗教葬[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月10日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『随想大学総長の手記』(鹿島研究所出版会、1974年)収録]
憲法の精神と改憲の問題『法律時報』35-12、11月20日
一年ひと昔[「随感」]『京都新聞[夕刊]』12月15日

1964(昭和39)年

- 小林直樹著日本における憲法動態の分析 未開拓分野での野心的な好著『週刊読書人』506、1月1日
世界平和と日本の役割『読売新聞』1月1日[座談会：谷川徹三、木村健康]『[大阪]読売新聞』1月1日
人間性回復の課題 現在の世界に満ちている抵抗と障害を乗り越えてのみ可能[「学芸」]『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1月5日
第三次世界大戦の発生は可能か否か[「学芸」]『京都新聞[夕刊]』1月8日
哲学の道[「ここに京都がある」、掲載紙未詳、1月15日 **【VIII(38)-58】**
ええ、ああ、まあ、まあ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』2月9日
創設一周をむかえて[「巻頭言」]『市政研究』[大阪市政調査会]5、2月20日
自然の世界の美しさ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』3月15日
風光の特質[「思い出す山陰」]『島根新聞』3月18日
私の高校時代 芥川龍之介と長崎太郎と菊池寛『人物群像』1-1、4月1日 **【VIII(38)-63】**
学生時代の寮生活[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月19日[「京大時代の寮生活」と改題、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]
庭木の新緑[「随感」]『京都新聞[夕刊]』5月24日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]
改憲と国際平和の問題[講演筆記於憲法調査会批判講座]『立命館新聞』973、6月21日
嘘を言いうることの意義[「随感」]『京都新聞[夕刊]』6月28日
日本のよさ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月9日
猛暑に親しむ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』9月13日
オリンピックに見る二つの動向[「随感」]『京都新聞[夕刊]』10月18日
[アメリカ原子力潜水艦寄港問題に関する大阪科学者研究集会へのメッセージ]、11月14日 **【VIII(38)】**

旧ゼミナールの会[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月29日

1965(昭和40)年

人間像寸論[「随感」]『京都新聞[夕刊]』1月24日

幸福な今の時代[「著者と一時間」]『朝日新聞』2月3日

私の大阪通勤 四半世紀にわたる変転[「ずいそう」]『人物群像』2-3、3月1日【Ⅶ(38)-80】

国家の成立と個人の誕生[「随感」]『京都新聞[夕刊]』4月10日

【「アンケート いま何をなすべきか」]『世界[臨時増刊 ヴェトナム戦争と日本の主張]』234、4月28日

思想の言葉『思想』491、5月5日

憲章と称するもの[「随感」]『京都新聞[夕刊]』5月22日

改憲と国際平和の問題[6月13日講演筆記於憲法調査会批判講座]『立命館学園新聞』973、6月21日

貴重な二票を[「清らかな選挙で育つよい社会 京都府選管標語」]『京都新聞』7月4日

終戦後の二〇年をかえりみる[巻頭言「明日を考える」]『潮』62、8月1日

水泳の楽しさ[「随感」]『京都新聞[夕刊]』8月14日

エッフェル塔の印象[「随感」]『京都新聞[夕刊]』9月25日

迷信からの超越[「500字提言」]『PHP』209、10月1日

佐々木惣一先生のおもかげ『法律時報』37-11、10月1日

糺の森のおもい出『洛味』159、10月5日

石と日本人の生活[「随感」]『京都新聞[夕刊]』11月6日

友情涙あり[「京都百年」]『京都新聞』12月11日

基本的人権の理解[「随感」]『京都新聞[夕刊]』12月18日

1966(昭和41)年

偉大な社会のありかた[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』2月5日

迷信の克服[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』3月19日

国民の祝日法改正と日本国の形成[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』4月30日

ある女性の生涯[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』6月11日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

矛盾と現実の世界[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』7月23日

水に親しんだ少年時代[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』9月3日[「水郷のおもい出」と改題、『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録、原題のまま、穴倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

眠りに入るための黙誦[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』10月15日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

たいした功績もないのに...[「さわやか受賞のことば 文化勲章 文化功労者」]『[大阪]朝日新聞[夕刊]』10月21日

文化功労者としての顕彰について[談話]『大阪市大新聞』294、11月10日[『「大阪市大新聞」セレクト縮刷版』(2006年)収録]

正義と平等[「土曜随感」]『京都新聞[夕刊]』11月26日

1967(昭和 42)年

図書館から受けた恩恵『図書』209、1月1日

明治時代のおもい出[「土曜随想」]『京都新聞[夕刊]』1月7日、2月18日[「なつかしい明治の頃」と改題・編集して『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録、原題のまま『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)、宍倉忠臣編『翡翠記』(山陰中央新報社、2004年)収録]

絶対平和主義と永世中立『永世中立』5、2月1日[「絶対的平和主義と永世中立」(『憲法問題入門』有斐閣、1963年)から抄録]

一番会いたい人ー亡き母親ー『大法輪』34-4、4月1日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)、『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)収録]

大正期における京大法科の追想『法学セミナー』133、4月1日

私と辞典『サンデー毎日』46-15、4月2日

愚と悪の骨頂[「土曜随想」]『京都新聞[夕刊]』5月13日

日本の社会と基本的人権[「土曜随想」]『京都新聞[夕刊]』7月1日[『若き日の恒藤恭』(世界思想社、1972年)収録]

創立五周年をむかえて『市政研究』<大阪市政調査会>17、11月15日

1978(昭和 53)年

土田杏村宛書簡[1930年8月4日]、上木敏郎「土田杏村と恒藤恭」『信州白樺』29、5月20日

7. 初出一覧

*論文集等の初出を掲げた。収録時に改題されているものについてのみ原題を示した。収録時に加筆・修正されているものもある。

『批判的法律哲学の研究』内外出版、1921年10月10日[増補3版：内外出版、1924年2月10日]

*は増補3版収録

| 収録論文 | 初出 |
|-------------------|--|
| ラスクの『法律学方法論』の解説 | ラスクノ『法律学方法論』ノ解説『法学論叢』2-1、3、1919年7月1日、9月1日 |
| シュタムラーの法理学の根本的見地 | スタムラーノ法理学ノ根本的見地『法学論叢』2-5、6、1919年11月1日、12月1日 |
| シュタムラーの『法律概念論』の考察 | スタムラーの『法律概念論』の考察『同志社論叢』1、1920年3月1日 |
| シュタムラーの『法律理念論』の考察 | スタムラーの『法律理念論』の考察『同志社論叢』4、1921年2月25日 |
| フリースの法律哲学の考察 | 『法学論叢』5-2、3、5、1921年2月1日、3月1日、5月1日 |
| シュタムラーの法律範疇論* | シュタムラーの法理的範疇論について『哲学研究』7-5~7、1922年5月1日、6月1日、7月1日 |

『国際法及び国際問題』弘文堂、1922年10月5日

| 収録論文 | 初出 |
|--------------------------|--|
| 国民の国際的発言権 | |
| 世界民の愉悦と悲哀 | 『改造』3-6、1921年6月1日 |
| 永久平和実現の二途 | 国際連盟と国際連合との対立の理論的意義 『同志社論叢』7、1922年2月15日 |
| モンロー主義の論理 | 『解放』4-3、4、1922年3月1日、4月1日 |
| 自然法並びに国際法に関するグローチウスの根本思想 | 未発表、グローチウス『戦争と平和の法』緒論、第1巻第1章の全訳 |
| イェリネックの国際法本質論 | イェリネックの国際条約本質論 『同志社論叢』8、1922年6月15日 |

『羅馬法に於ける慣習法の歴史及理論』弘文堂書房、1924年2月25日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------------|---|
| 羅馬法の法源史における慣習法の地位 | 羅馬法ニ於ケル慣習法ノ制度及ビ理論『京都法学会雑誌』13-9~12、1918年9月1日、10月1日、11月1日、12月1日 |
| 羅馬法における慣習法の理論 | 羅馬法ニ於ケル慣習法ノ理論『法学論叢』1-2~6、1919年2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日 |

『社会と意志』内外出版、1924年2月25日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------------|--|
| 社会と意志 | 社会哲学に於ける主意的二元論的思想『経済論叢』14-5、6、15-1、3、5、1922年5月1日、月1日、7月1日、9月1日、11月1日 |
| 付録 社会契約説の発展（ギールケ） | |

『法律の生命』岩波書店、1927年5月10日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------|-------------------------------|
| 法律の生命 | 『改造』5-3、1923年3月1日 |
| 生存権と法律体系 | 『改造』5-9、1923年9月1日 |
| 法律価値の内容と妥当性 | 『法学論叢』11-2、3、1924年2月1日、3月1日 |
| 法律秩序の認識 | 『法学論叢』10-4、5、1923年10月1日、11月1日 |
| 国際法と社会契約説 | 『講座』5、7、8、1923年5月1日、7月1日、8月1日 |
| 自律の法理的意義 | 『哲学研究』8-11、1923年11月1日 |

『価値と文化現象』弘文堂書房、1927年6月15日

| 収録論文 | 初出 |
|-----------------------|--|
| 自然価値と文化価値との対立 | 『同志社論叢』13、1924年2月25日 |
| 自然美と芸術美 | 『改造』6-2、1924年2月1日 |
| 価値の類型と個性 | 『経済論叢』16-4~6、1923年4月1日、5月1日、6月1日 |
| 文化的認識の二方向 | 文化的認識と歴史的認識『経済論叢』17-1、2、1923年7月1日、8月1日 |
| 政治現象の本質 | 『経済論叢』18-2、3、1924年2月1日、3月1日 |
| 価値の量 | 『経済論叢』17-6、1923年12月1日 |
| 道徳的価値判断に関するアダム・スミスの思想 | 道徳的価値判断に関するスミスの思想『経済論叢』18-1、1924年1月1日 |

『法の基本問題』岩波書店、1936年10月20日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------------|---|
| 法律と法律価値との関係について | 『法学論叢』25-5、1931年5月1日 |
| 法の本質とその把握方法 | 『法学論叢』27-1、3、5、1932年1月1日、3月1日、5月1日 |
| 法律の見地より観たる範型の概念 | 『法学論叢』20-1、1928年7月1日 |
| 制度の本質について | 『法と経済』1-3、1934年3月1日 |
| 法の技術的理念と国際法社会 | 『法と経済』2-5、1934年11月1日 |
| 世界法の本質と其の社会的基礎 | 『公法雑誌』5-2~5、1936年2月5日、3月5日、4月5日、5月5日 |
| ヘーゲルによる自然法学批判について | 『法学論叢』20-5、6、21-1、3、1928年11月1日、12月1日、1929年1月1日、3月1日 |
| 自然状態と法律状態 | 『法学論叢』21-6、22-3、1929年6月1日、9月1日 |
| 刑法学における進歩的精神 | 『中央公論』48-7、1933年7月1日 |

『法的人格者の理論』弘文堂、1936年11月20日[新版世界思想社、1949年6月10日]

| 収録論文 | 初出 |
|------------------|--|
| 序説 人格者の概念の歴史について | 法律意識における人格者概念『法学論叢』23-1、6、1930年1月1日、6月1日 |
| 法律意識における人格者概念 | 『法学論叢』24-1、3、6、1930年7月1日、9月1日、12月1日 |
| 法的範疇としての人格者概念 | 『法と経済』5-3、4、1936年3月1日、4月1日 |
| 道徳的人格と法的人格 | 『法と経済』4-2、3、1935年8月1日、9月1日 |
| 法的人格者の原始的形態 | |

『世界民の立場から』<日本叢書37>生活社、1946年4月25日

| 収録論文 | 初出 |
|----------|----------------------------|
| 世界民の立場から | 世界民の愉悦と悲哀『改造』3-6、1921年6月1日 |

『新憲法と民主主義』岩波書店、1947年9月10日

| 収録論文 | 初出 |
|--------------|----------------------------------|
| 天皇の象徴的地位について | 『世界』10~12、1946年10月1日、11月1日、12月1日 |
| 改正憲法の革命的 성격 | 『時論』2-1、1947年1月1日 |
| 民主政治の実現 | 『文芸春秋』24-4、1946年6月1日 |
| 法の革新と道徳の進展 | 『改造』27-10、11、1946年10月1日、11月1日 |
| 交戦権の放棄 | 『中外日報』1946年9月17、18、20、21日 |
| 基本的人権について | 1947年9月1日ラジオ放送(於京都放送局) |
| 改正憲法と経済生活 | 『農業経済新聞』1946年11月3日 |
| 新憲法と経済的基本権 | |

『復活祭のころ』朝日新聞社、1948年5月10日

| 収録論文 | 初出 |
|------------|---------------------|
| 復活祭のころ | 『経済往来』3-2、1928年2月1日 |
| 或る仏蘭西人への書簡 | 『経済往来』2-5、1927年5月1日 |

| | |
|------------------|--|
| 天使のいばり | 『文芸春秋』4-12、1926年12月1日 |
| ディーニュの町 | 『文芸春秋』5-6、1927年6月1日 |
| 秋、思い出す人々 | 『大阪朝日新聞』1934年11月7～9日 |
| 大正の初めの頃 | 『京都帝国大学新聞』219、1935年4月16日 |
| 底冷え | 『文芸春秋』10-1、1932年1月1日 |
| 窓紗 | 『松陽新報』1917年8月 |
| 土佐から | 『松陽新報』1914年7月22、23、25、26、28～30日、8月2、4～6日(『復活祭のころ』) |
| 或る夏の手記より | ある夏の手記から『大調和』6、1927年9月1日 |
| ゲーテとサン・シモン派の社会思想 | ゲーテのサン・シモン説批評の言葉『現代学生新聞』1932年10月25日 |
| 翻訳について | 論壇時評『読売新聞』1933年9月7日の「非、非常時的論文」の一節「肯定出来ぬ楚人冠氏の翻訳論」 |
| 書物と昔の人 | 『帝国大学新聞』743、1938年11月30日 |
| 巴里書信 | |

『知性の視野』有恒社、1948年12月1日

| 収録論文 | 初出 |
|-----------------|------------------------------------|
| 学園に題す | 『大阪商大新聞』1936年11月8日 |
| 学問の分類 | 『学生と科学』日本評論社、1939年12月20日 |
| 人文科学思想概論 | 概論『人文科学思想』河出書房、1939年7月26日 |
| 文化の本質 | 文化『哲学教養講座 第6巻』三笠書房、1939年8月15日 |
| 民族文化における個性的なるもの | 『京都市教育』8-1、1931年1月1日 |
| 地方文化の在りかた | 地方文化のありかた『四国春秋』2-1、1947年1月1日 |
| 学園と其の存在意義 | 学園の意義『学生と学園』日本評論社、1939年6月25日 |
| 社会における学生の地位 | 『学生と社会』日本評論社、1938年6月28日 |
| 学生層の思想的動きについて | 学生層の思想的動きをかえりみる『学園新聞』143、1947年1月1日 |
| 教養について | 現代の教養『現代の教養』三笠書房、1939年11月7日 |
| 再建日本と教養の問題 | |
| 読書について | 読書『学生と生活』日本評論社、1937年7月17日 |

『旧友芥川龍之介』朝日新聞社、1949年8月10日

| 収録論文 | 初出 |
|------------|---|
| 友人芥川の追憶 | 『文芸春秋』5-9、1927年9月1日 |
| 芥川龍之介 | 『改造』9-9、1927年9月1日 |
| 芥川龍之介のことなど | 『智慧』2-1～4、6、3-1、2、4、5、1947年5月1、25日、8月1日、9月1日、12月1日、1948年1月1日、2月1日、6月25日、7月25日 |
| 赤城の山つゞじ | 『松陽新報』1913年7月16、17、19、22、23日 |

『型による認識』勁草書房、1950年10月18日

| 収録論文 | 初出 |
|------------------|---|
| 型による認識 | 型について『経済論叢』26-1、1928年1月1日 |
| 文化現象の凝集作用 | 『経済論叢』25-2、3、5、6、1927年8月1日、9月1日、11月1日、12月1日 |
| 思想の正当性と異端性 | 『改造』9-4、1927年4月1日 |
| 芸術的観照における内面と外面 | 『改造』10-7、1928年7月1日 |
| 共産の原理 | 『経済論叢』17-3、1923年9月1日 |
| 共産社会の自存的形式と寄生的形式 | 『我等』5-8、1923年8月1日 |
| 多数決の原理 | 『我等』6-2、1924年3月1日 |
| 家族制度論 | 『家族制度全集 第1部 第4巻 家』河出書房、1938年1月20日 |
| 文化の包括的概念と局限的概念 | 『経済学雑誌』8-1・3、1941年1月1日、3月1日 |

『現代随想全集 27 田中耕太郎 恒藤恭 向坂逸郎集』東京創元社、1955年3月30日

| 収録論文 | 初出 |
|------------------|---|
| 友人芥川の追憶 | 『文芸春秋』5-9、1927年9月1日 |
| 石の感覚 | 石の感触『洛味』1、1946年9月10日 |
| 学生層の思想的動きをかえりみる | 『学園新聞』143、1947年1月1日 |
| 大阪に造って欲しかった公園の構想 | 大阪につくって欲しかった「公園の構想」『大阪人』5-4、1951年4月1日 |
| 世界平和と新憲法 | 『[大阪]朝日新聞』1948年5月3日 |
| キリスト教と社会基層 | 基督教と社会基層『中外日報』1947年2月1日 |
| わたくしのすきな人 | 金銭や権力に屈せず学者の生涯を全うしたスピノザ『毎日小学生新聞』1948年5月5日 |
| 読書のおもい出 | 学生時代の読書のおもい出『学生と読書』河出書房、1954年4月30日 |
| 憲法に盛られた夢 | 憲法に盛られた夢のいろいろ『毎日新聞』1950年5月2日 |
| 私の信条 | 『世界』63、1951年3月1日 |
| 学究生活の回顧 | 『思想』343、344、1953年1月5日、2月5日 |
| 独立日本の目標と進路 | 独立日本の目標と進路『[大阪]産業経済新聞』1953年1月1日 |
| 死の灰と日本の安全保障 | 『中部日本新聞』1954年11月1日 |

『憲法問題—その解決の基準は何か—』<岩波新書>岩波書店、1964年12月21日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------|--------------------------|
| 戦争放棄の問題 | 『世界』41、42、1949年5月1日、6月1日 |
| 日本民族の更生の途 | 『世界』75、1952年3月1日 |
| 憲法と新しい道徳基準 | 『世界』76、1952年4月1日 |
| 平和憲法と日本の運命 | 『世界』94、1953年10月1日 |
| 平和憲法と国民の真情 | 『世界』138、1957年6月1日 |
| 憲法問題解決の基準 | 『世界』159、1959年3月1日 |
| 平和憲法と最高裁の使命 | 『世界』170、1960年2月1日 |

『法の本質』岩波書店、1968年10月16日

| 収録論文 | 初出 |
|------|---|
| 法の本質 | 『公法雑誌』1-1~2-9、1935年1月5日、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日、9月5日、10月5日、11月5日、12月5日、1936年1月5日、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日、9月5日 |

『哲学と法学』岩波書店、1969年3月31日

| 収録論文 | 初出 |
|----------------------|--|
| 哲学と法学との交渉 | 『哲学と諸科学の交渉』岩波書店、1933年2月20日 |
| 法哲学の意義と課題 | 『法の基本理論』有斐閣、1956年3月30日 |
| 法的世界と法的世界観 | 『国家及法律の理論 佐々木博士還暦記念』[田村徳治編]有斐閣、1938年10月25日 |
| 正義の本質について | 『法と経済』8-3、4、1937年9月1日、10月1日 |
| 社会契約説と社会連帯説 | 『公法雑誌』4-4、9、10、1938年4月5日、5月5日、6月5日 |
| 法哲学史の観点から見たケネーの自然法思想 | 『季刊法律学』15、16、1953年6月10日、11月10日 |
| 歴史法学と歴史派経済学 | 『経済学雑誌』5-2、1939年8月1日 |
| 新ヘーゲル主義の法律哲学の批判 | 『公法雑誌』3-7、1937年7月5日 |
| 法の主体としての民族と国家 | 『法律時報』8-11、1936年11月1日 |
| 法律とヒューマンイズム | 『ヒューマンイズムと諸文化』みすず書房、1947年3月15日 |
| 法社会学の諸傾向 | 『季刊法律学』6、7、1949年5月25日、10月15日 |
| 人と思想 | |
| 法律思想小史 | 『法律思想小史』日本放送協会、1952年 |
| アリストテレス | 『経済学辞典 第一巻』岩波書店、1930年11月15日 |
| ホッブス | 『経済学辞典 第五巻』岩波書店、1932年1月15日 |
| 社会契約説 | 『経済学小辞典』岩波書店、1951年6月20日 |
| 自然法 | 『経済学小辞典』岩波書店、1951年6月20日 |
| カント | 『経済学小辞典』岩波書店、1951年6月20日 |

| | |
|-----------|--------------------------------|
| マルクス主義学派 | 『法律学辞典Ⅳ』岩波書店、1936年8月27日 |
| 法的社会主義 | 『経済学辞典 第五卷』岩波書店、1932年1月15日 |
| ジンメル | 『経済学小辞典』岩波書店、1951年6月20日 |
| 新カント学派 | 『法律学辞典 2』岩波書店、1935年6月30日 |
| シュタムラー | シュタムレル『法律学辞典 2』岩波書店、1935年6月30日 |
| 利益法学 | 『法律学辞典Ⅳ』岩波書店、1936年8月27日 |
| 法哲学 | 『世界大百科事典 第26巻』平凡社、1958年7月25日 |
| 経済哲学 | 『経済学辞典 第二巻』岩波書店、1931年2月15日 |
| 人文科学思想概論 | 概論『人文科学思想』河出書房、1939年7月26日 |
| 経済哲学とその課題 | 『経済学雑誌』1-1、1937年4月1日 |

『法の精神』岩波書店、1969年6月27日

| 収録論文 | 初出 |
|-------------------------------|--|
| 法解釈学と価値判断 | 『季刊法律学』19、20、22、1955年7月15日、 1956年 4月5日、 1957年 2月5日 |
| 法体系と法体制と法秩序 | 『季刊法律学』10、12、1951年6月10日、 1952年 5月20日 |
| 生活秩序としての法の認識 | 『法と経済』10-5、6、1938年11月1日、12月1日 |
| 法の規範的性格 | 『法と経済』13-6、1940年6月1日 |
| 法の基本的機能について | 『経済学雑誌』10-5、1942年5月1日 |
| 法の精神について | 『民商法雑誌』創刊二十五周年記念特集号 私法学論集(下)』39-4・5・6、1959年4月10日 |
| 法の精神についての再論 | 『法学雑誌』7-1、2、1960年7月20日、9月30日 |
| 個人の尊厳—自由の法理との連関から見た個人の尊厳について— | 『自由の法理 尾高朝雄教授追悼論文集』有斐閣、1963年6月30日 |
| 法の進化 | 『社会科学辞典』河出書房、1949年11月30日 |
| 法の主体 | 『法哲学講座 第5巻 上 法の主体』有斐閣、1960年7月30日 |
| 制度 | 『岩波講座倫理学 第1冊』岩波書店、1940年5月17日 |
| 契約 | 『岩波講座倫理学 第14冊』岩波書店、1941年12月15日 |
| 法と法学Ⅰ | |
| 法と法学 | 『法学研究入門』[監修]ミネルヴァ書房、1955年5月15日 |
| 法と法学Ⅱ | |
| 法 | 『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日 |
| 法律関係 | 『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日 |
| 法 | 『世界大百科事典 第26巻』平凡社、1958年7月25日 |
| 法学 | 『世界大百科事典 第26巻』平凡社、1958年7月25日 |
| 法理学 | <政治経済講義>早稲田大学出版部、1931年 |
| 法理学—法律の権威について— | <政治経済講義>早稲田大学出版部、1931年 |

『法と道徳』岩波書店、1969年9月27日

| 収録論文 | 初出 |
|------------------------------------|---|
| 政治、特に国際政治の概念 | 『立命館三十五周年記念論文集 法経篇』立命館大学編、立命館出版部、1935年11月25日 |
| 民主主義の公法原理 | 『民主主義の法律原理』有斐閣、1949年2月20日 |
| 世界法及び世界国家 | 『国際法講座 第1巻』有斐閣、1953年3月25日 |
| 国家の全体性について | 『経済学雑誌』2-4、5、3-3、1938年4月1日、5月1日、6月1日、9月1日 |
| 法と倫理 | 『公法雑誌』7-3~6、7、1941年3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日 |
| 道徳的義務と法的義務—道徳と法との関係についてのカントの学説の検討— | 『公法雑誌』7-10、11、8-1、5、9、1941年10月5日、11月5日、 1942年 1月5日、5月5日、9月5日 |
| 法における倫理的契機と技術的契機 | 『法律時報』14-10、15-1、2、4、10、1942年10月1日、 1943年 1月1日、2月1日、4月1日、10月1日 |
| 国際法社会の構造及び性格について | 『公法雑誌』9-8、10、1943年8月30日、10月20日 |
| 世界史の審判と人間による審判 | 『経済学雑誌』16-1、1946年1月1日 |
| 世界における法と人間 | 『季刊法律学』1、1947年9月1日 |
| 国際法と国際政治 | 『法哲学四季報』3、1949年8月5日 |
| 戦後日本の法と法思想について—巻頭のこぼれ— | 『季刊法律学』25、1958年1月15日 |

| | |
|--------------|------------------------|
| 法と道徳の問題について | 『法哲学年報 1957』1958年3月30日 |
| 法と経済との関係について | 『経済論叢』92-3、1963年9月1日 |

『若き日の恒藤恭』[山崎時彦編]世界思想社、1972年1月5日

| 収録論文 | 初出 |
|---------------------|---|
| I 遥かなる故郷 | |
| 想い出の松江一人と風物一 | 四十年振りの帰郷『島根県人』9、10、1960年8月20日、11月5日 |
| ふるさとの味 | 味覚のおもい出『あまカラ』94、1959年6月1日 |
| なつかしい明治の頃 | 明治時代のおもい出『京都新聞[夕刊]』1967年1月7日、2月18日[初出を編集] |
| 父のおもい出 | 窓紗『松陽新報』1917年8月から収録 |
| 一番会いたい人ー亡き母ー | 『大法輪』34-4、1967年4月1日 |
| 水郷のおもい出 | 水に親しんだ少年時代『京都新聞[夕刊]』1966年9月3日 |
| うれしいお正月 | 嬉しいお正月『松陽新報』1910年1月2日 |
| 短歌・俳句 | 1903年の1首、1904年の8首、1905年の32首、1906年の42首、1908年の4首、1904年の俳句3首 |
| 山の宿 | 1904年 |
| 七草の歌 | 1907年 |
| 三の丸 | 1907年 |
| 時代の反影 | 『ハガキ文学』4-11、1907年10月1日 |
| 島根県立第一中学校の歌 | 1907年 |
| 大宇宙 | 『ハガキ文学』5-3、1908年3月1日 |
| 蜆取り | 『松陽新報』1906年6月16日 |
| 海の花 | 『都新聞』1908年7月16日～8月24日 |
| II 新しいものと若き心 | |
| 入寮第一日 | 『井川恭日記』(『向稜記』)1910年9月11日から作成された原稿 |
| 菊池君との出会い | 芥川龍之介のことなど 三十七 入学当初のころの菊池寛のこと(『旧友芥川龍之介』) |
| 墨田川を漕ぐ | ある日の日記『紅桃』13、1958年12月25日 |
| 矢内原君のおもい出 | 『図書』163、164、1953年3月1日、4月1日 |
| サロメ…ふるさとの妹へ送る便り | 『松陽新報』1912年11月20、27～30日 |
| 赤城の山つゝじ | 『松陽新報』1913年7月16、17、19、22、23日(『旧友芥川龍之介』) |
| 一高生活のおもい出 | 芥川龍之介のことなど 三十九 一高生活の終りのころ(『旧友芥川龍之介』) |
| 短歌 | 1912年の9首 |
| 小品数章 | 1911年 |
| 紫陽花 | |
| 片原川 | 詩三篇『松陽新報』1912年7月6日 |
| 城山にて | |
| 新しいものと若き心 | 『松陽新報』1913年1月2、3、5日 |
| むさし野 | 『松陽新報』1912年2月21～24日 |
| レエタ・アキリア | 『教育学術界』27-1、1913年4月10日 |
| III 思索への道 | |
| 静けき悩み | 『松陽新報』1913年10月31日、11月4～6日 |
| わが青春時代の生活 | わが青春 寮生活に刺げき 芥川に接して文学を捨てる 『[大阪]読売新聞』1961年1月5日 |
| 京大時代の寮生活 | 学生時代の寮生活『京都新聞[夕刊]』1964年4月19日 |
| 大正の初めの頃 | 『京都帝国大学新聞』219、1935年4月16日 |
| 読書のおもい出 | 『現代随想全集 27』からの再録。初出は、学生時代の読書のおもい出『学生と読書』河出書房、1954年4月30日 |
| 短歌 | 1913年の11首、1915年の22首 |
| 夜想曲 | セレナーデ(訳詩二篇)…ポール・ヴェルレーヌ…『水郷』1、 |
| みとせ経て | 1913年10月25日 |
| 冬 | |
| 清水で | 詩三篇『Tarantola』1、1914年3月20日 |
| 窓 | |
| 青白きわが顔をなが膝のうえにおく | |
| おもひ出 | 翡翠記十『松陽新報』1915年8月から収録 |
| 王冠をつくる人 | 『中学世界』18-8、1915年6月5日 |

| IV下鴨に移り住んでから | |
|--------------|--|
| 糺の森 | 窓紗(『松陽新報』1917年8月)三～九を編集 |
| 嵐山のはるさめ | 芥川龍之介のことなど 八 嵐山のはるさめ(『旧友芥川龍之介』) |
| 妻への便り | 1924年4月4日、5月17日、7月28日、8月5日10月25、31日、11月4日、12月6日、1925年2月5、21、23日、1926年1月2日、4月28日、5月18日付恒藤雅宛書簡 |
| 短歌 | 1917年の短歌23首 |
| 秋、思ひ出す人々 | 『大阪朝日新聞』1934年11月7～9日 |
| V洛中・洛外一人と風物 | |
| ひがんぼな | 芥川龍之介のことなど 三 ひがんぼな(『旧友芥川龍之介』) |
| 塔のある風景 | 『洛味』74、1958年6月15日 |
| 京都の寒さ暑さ | 『京都新聞[夕刊]』1960年2月14日 |
| ある世捨て人の生涯 | 『京都新聞[夕刊]』1960年7月3日 |
| 天使のすがたと天女の像 | 『京都新聞[夕刊]』1961年2月26日 |
| 難聴の得失 | 『京都新聞[夕刊]』1961年3月26日 |
| 街路の散歩 | 『京都新聞[夕刊]』1961年12月3日 |
| 竹やぶの美しさ | 『京都新聞[夕刊]』1963年1月27日 |
| ある日の無宗教葬 | 『京都新聞[夕刊]』1963年11月10日 |
| 庭木の新緑 | 『京都新聞[夕刊]』1964年5月24日 |
| ある女性の生涯 | 『京都新聞[夕刊]』1966年6月11日 |
| 眠りに入るための黙誦 | 『京都新聞[夕刊]』1966年10月15日 |
| 日本の社会と基本的人権 | 『京都新聞[夕刊]』1967年7月1日 |
| 短歌・俳句 | 1946年の短歌1首、1953年の短歌17首 俳句3首。初出は「楽焼の句」『京都』36、1953年10月1日 |
| 郊外 | 詩三篇『大阪商大新聞』1936年11月8日 |
| 城東線にて | |
| 学園に題す | |
| おもひ出 | |
| 此の秋 | |
| ひとつの感想 | |
| 顔 | |
| 木犀花咲くころ | 1949年の詩5篇 |
| 旅びとの夜の歌 | |
| 旅びとの夜の歌 | 芥川龍之介のことなど 二十六 旅びとの夜の歌(『旧友芥川龍之介』) |

『随想大学総長の手記』京都新聞社編、鹿島研究所出版会、1974年11月30日

| 収録論文 | 初出 |
|---------------|-----------------------|
| 京都の寒さ暑さ | 『京都新聞[夕刊]』1960年2月14日 |
| 花の醍醐寺に思う | 『京都新聞[夕刊]』1960年4月10日 |
| 明治期の道德教育 | 『京都新聞[夕刊]』1960年10月23日 |
| たいくつの感覚 | 『京都新聞[夕刊]』1961年7月16日 |
| 第三の善意と各人の安全保障 | 『京都新聞[夕刊]』1962年6月3日 |
| 仏事と現代生活 | 『京都新聞[夕刊]』1962年8月12日 |
| 没我の心境 | 『京都新聞[夕刊]』1962年11月25日 |
| ある日の無宗教葬 | 『京都新聞[夕刊]』1963年11月10日 |

『恒藤恭の青年時代』未来社、2003年10月30日

| 収録論文 | 初出 |
|---------------|--|
| I 還かなる故郷 | |
| 想い出の松江一人と風物一 | 四十年振りの帰郷『島根県人』9、10、1960年 |
| ふるさとの味 | 味覚のおもい出『あまカラ』94、1959年6月1日 |
| 明治時代のおもい出 | 『京都新聞[夕刊]』1967年1月7日、2月18日 |
| 父のおもい出 | 窓紗『松陽新報』1917年8月から収録 |
| 一番会いたい人ー亡き母親一 | 『大法輪』34-4、1967年4月1日 |
| 水郷のおもい出 | 水に親しんだ少年時代『京都新聞[夕刊]』1966年9月3日 |
| 嬉しいお正月 | 『松陽新報』1910年1月2日 |
| 短歌・俳句 | 1903年の1首、1904年の8首、1905年の32首、1906年の42首、1908年の4首。 1904年の俳句3首。 |

| | |
|---------------------|--|
| 山の宿 | 1904年 |
| 時代の反影 | 『ハガキ文学』4-11、1907年10月1日 |
| 島根県立第一中学校の歌 | 1907年 |
| 大宇宙 | 『ハガキ文学』5-3、1908年3月1日 |
| 蜆取り | 『松陽新報』1906年6月16日 |
| 無我無為録(抜粋) | 1907年10月1日～1908年7月19日の日記抄 |
| II 新しきものと若き心 | |
| 赤城の山つゝじ | 『松陽新報』1913年7月16、17、19、22、23日(『旧友芥川龍之介』) |
| 一高生活のおもい出 | 芥川龍之介のことなど 三十九 一高生活の終りのころ『智慧』(『旧友芥川龍之介』) |
| 小品数章 | 1911年 |
| 紫陽花 | |
| 片原川 | 詩三篇『松陽新報』1912年7月6日 |
| 城山にて | |
| 新しきものと若き心 | 『松陽新報』1913年1月2、3、5日 |
| むさし野 | 『松陽新報』1912年2月21～24日 |
| レエタ・アキリア | 『教育学術界』27-1、1913年4月10日 |
| III 思索への道 | |
| 静けき悩み | 『松陽新報』1913年10月31日、11月4～6日 |
| わが青春時代の生活 | わが青春 寮生活に刺げき 芥川に接して文学を捨てる『[大阪]読売新聞』1961年1月5日 |
| 京大時代の寮生活 | 学生時代の寮生活『京都新聞[夕刊]』1964年4月19日 |
| 大正の初めの頃 | 『京都帝国大学新聞』219、1935年4月16日 |
| 読書のおもい出 | 学生時代の読書のおもい出『学生と読書』河出書房、1954年4月30日(『現代随想全集 27』) |
| 短歌 | 1913年の11首、1915年の22首 |
| 夜想曲 | セレナーダ(訳詩二篇) …ポール・ヴェルレーヌ…『水郷』1、 |
| みとせ経て | 1913年10月25日 |
| 冬 | |
| 清水で | 詩三篇『Tarantola』1、1914年3月20日 |
| 窓 | |
| 青白きわが顔をなが膝のうえにおく | 翡翠記 十『松陽新報』1915年8月から収録 |
| おもひ出 | |
| 王冠をつくる人 | 『中学世界』18-8、1915年6月5日 |
| 土佐から | 『松陽新報』1914年7月22、23、25、26、28～30日、8月2、4～6日(『復活祭のころ』) |
| 山上 | 『松陽新報』1917年1月2、3日 |
| 珊瑚を砕く | 『中学世界』19-2、4、5、6、8、1916年2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日 |
| 友人芥川の追憶 | 『文芸春秋』5-9、1927年9月1日(『旧友芥川龍之介』) |

『翡翠記』 宍倉忠臣編、山陰中央新報社、2004年5月20日

| 収録論文 | 初出 |
|-----------------|--|
| 翡翠記 | 『松陽新報』1915年8月 |
| 大山 | 『松陽新報』1906年8月2日 |
| 多胡の七つ穴 | 『松陽新報』1906年8月 |
| 春の山路 | 『松陽新報』1907年5月9～12日 |
| 蛇山登山記 | 『松陽新報』1907年11月 |
| 仏経山 | 『松陽新報』1908年5月 |
| 城の奥 | 『松陽新報』1911年8月26、27日 |
| 帰郷記一都の友へおくるたより一 | 『松陽新報』1912年6月26、27日 |
| 白き愁一わが夏の一 | 『松陽新報』1912年7月19日 |
| あげ羽の蝶一わが夏の一 | 『松陽新報』1912年7月20日 |
| 松江美論 | 『松陽新報』1913年8月21、22～24、27、29～31日、9月2、4、6、10、11日 |
| ヘルンの旧居を訪れて | 葎草(十二)～(三十三)『松陽新報』1916年7月、8月 |
| 窓紗(一) | 『松陽新報』1917年8月 |
| 森鷗外の印象 | 芥川龍之介のことなど 二十五 森鷗外の印象『旧友芥川龍之介』朝日新聞社、1949年8月10日 |
| 四十年振りの帰郷 | 『島根県人』9、10、1960年8月20日、11月5日 |
| 水に親しんだ少年時代 | 『京都新聞[夕刊]』1966年9月3日 |
| 明治時代のおもい出 | 『京都新聞[夕刊]』1967年1月7日、2月18日 |

付記1

恒藤記念室所蔵の「スクラップブック」には、刊行年月・掲載誌紙を特定できない多くの著作が遺されているが、本目録では、刊行年月を特定できないものは採録していない。ただし、一部、推定で採録したのものもある。掲載誌紙を特定できないが、刊行年月を特定できるものは、掲載誌紙未詳として採録した。

付記2

関口安義編「恒藤恭年譜・著作目録」(『恒藤恭とその時代』日本エディタースクール出版部、2002年)に採録されている著作のうち、本著作目録で、削除・訂正したものは以下の通りである(文献探索上支障のない程度の誤記・誤植は省略する)

(1) 下記著作は削除した。理由は、=>以下に記した。

詩壇合評『白鳩』1906年4月1日=>詩壇合評(『白鳩』2-4、1906年4月1日)に参加している形跡はない。

入寮第一日『松陽新報』1910年9月=>山崎時彦編『若き日の恒藤恭』が、「井川恭日記」1910年9月11日から作成した原稿「入寮第一日」を収録しているが、『松陽新報』への発表は確認できない。

糺の森『松陽新報』1917年8月=>山崎時彦編『若き日の恒藤恭』に収録されているが、「窓紗」(『松陽新報』1917年8月)の3~9を編集し「糺の森」と題して収録したものである。

父のおもひ出『松陽新報』1917年8月=>上記と同様、「窓紗」(『松陽新報』1917年8月)の14、15を「父のおもひ出」と題して収録したものである。

世界民の愉悦と悲哀『読売新聞』1921年5月27日=>『改造』掲載。『読売新聞』掲載はない。『法の本質(ラスク)』大村書店、1935年2月15日=>存在しない。

政治的独立への進路—平和問題談話会法律政治部会報告—『保険評論』1954年12月1日=>『世界』掲載。『保険評論』に掲載はない。

憲法調査会法案の要綱を見て『西日本新聞』1955年6月20日=>『中部日本新聞』、『北海道新聞』掲載。『西日本新聞』に掲載はない。

なつかしい明治の頃『京都新聞(夕刊)』1967年1月24日、2月16日=>山崎時彦編『若き日の恒藤恭』に収録されているが、「明治時代のおもひ出」(『京都新聞(夕刊)』1967年1月7日、2月18日)を改題・編集したものである。同書の改題・増補版である『恒藤恭の青年時代』(未来社、2003年)では、初出原題で収録されている。

(2) 下記著作は、掲載を確認できないので採録を保留した。

新聞と三つの自由『京都新聞』1948年1月3日[10月の新聞週間に寄せたものと推測される]

大学の自治と学長『西日本新聞』1952年3月15日

(3) 下記著作の下線部は、訂正した。

定の運命『ハガキ文学』1907年3月1日=>恋

冷笑『ハガキ文学』1908年4月1日=>3月

戦ひの世に処する堅実な頭脳『女学世界』1910年6月26日=>7月1日

政治現象の本質『経済論叢』1920年8月1日=>1924年2月1日、3月1日

法律の生命『改造』1921年6月1日=>1923年3月

ヘーゲル哲学の批判(フォイエエルバッハ)『我等』1927年7月1日=>6月1日、7月1日、8月1日

ヘーゲルによる自然法学批判について『法学論叢』1928年5月1日～7月1日、9月1日 => 1928年11月1日、12月1日、1929年1月1日、3月1日

イデオロギーとその雰囲気『大阪毎日新聞』1929年5月14日 => 1930年1月4日

瀧川事件の経過から見た大学自治の問題『東京帝国大学新聞』1933年6月5日 => 『帝国大学新聞』

京大問題を記念するために『日の出新聞』（夕刊）1933年9月10日 => 『京都日出新聞[夕刊]』

秋、思ひ出す人々『大阪朝日新聞』1934年11月6、7、8日 => 7～9日

詩三篇『大阪商大新聞』1935年11月8日 => 1936年

世界法の本質と其の社会的基礎『法と経済』1936年2月1日～5月1日 => 『公法雑誌』、2月5日、3月5日、4月5日、5月5日

社会契約説と社会連帯説—法の基礎理論としての両者の対照—『公法雑誌』1936年4月1日～6月1日 => 1938年4月5日、5月5日、6月5日

社会運動における正統と異端『解放運動』1936年11月12日 => 1922年12月1日

経済哲学と其の課題『経済学雑誌』1937年1月1日 => 4月

事変への関心とその学問的理解『大阪朝日新聞』1937年10月6日 => 『大阪朝日新聞[京都版]』

日本精神の把握—明春は支那の正確な認識へ『毎日新聞』1937年12月16日 => 『大阪毎日新聞[京都版]』

英国人と米国人『大阪朝日新聞』（夕刊）1938年2月1～3日 => 『夕刊大阪』

新入学生におくる『大阪朝日新聞』1938年4月13日 => 『大阪朝日新聞[京都版]』

新興文化の方向—欧州文化の転換『毎日新聞』1940年6月23、25、27日 => 『大阪毎日新聞』

法と倫理『公法雑誌』1941年3月1日 => 3月5日、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日

道徳的義務と法的義務—道徳と法との関係についてのカントの学説の検討—『公法雑誌』1941年10月5日、11月1日 => 10月5日、11月5日、1942年1月5日、5月5日、9月5日

国際法社会の構造及び性格について『公法雑誌』1943年10月30日 => 8月30日、10月20日

神話と歴史『朝日新聞』（大阪版）1946年2月9、12～14日 => 『[大阪]朝日新聞』9、12～15日

法の観点から見た戦争犯罪批判『毎日新聞』1946年7月15日 => 『[大阪]毎日新聞』

京都の秋をかざるもの『夕刊京都新聞』1946年9月20日 => 『夕刊京都』、18～20日

法律体系革新の第一段階『文化展望』1946年 => 1947年1月1日

新憲法と主権『あをぞら』1947年7月1日～9月1日、8月1日 => 5月30日、8月15日

政治の倫理と政治の現実『中部日本新聞』1947年11月1日 => 12月

新聞と経済『産業経済新聞』1948年1月2日 => 『[大阪]産業経済新聞』、10月

基本的人権と地方公共団体『中部日本新聞』1948年1月4日 => 10月

新聞週間をむかえて『都新聞』1948年1月6日 => 10月7日

国語に対する愛情について『京一中新聞』1948年2月 => 3月

ポツダム宣言発表三周年をむかえて『中部日本新聞』1948年8月2日 => 2、3日

世界秩序の再建と国際連合の存在『法律文化』1947年9月 => 1948年

国際政治と国内政治『法律文化』1949年6月1日 => 7月15日

民族主義の鼓吹に伴う危険性『中部日本新聞』1949年7月25日 => 5月23日

九月二日を迎える『都新聞』1949年9月1日 => 2日

入学試験期の感想『中部日本新聞』1951年3月1日 => 5日

ハンス・ケルゼン著著鶴飼信成著法と国家『日本読書新聞』1951年3月12日=>1952年
 追放解除の効果と意義『中部日本新聞』1951年6月1日=>4日
 二つの対日条約解説書『日本読書新聞』1951年7月16日=>1952年
 故郷に夏ありきー松江『毎日新聞』1951年8月14日=>『[大阪]毎日新聞[夕刊]』
 独立後の日本文化『大阪新聞』1952年4月28日、偏狭な独善を戒む『大阪新聞』1952年4月29
 日=>独立後の日本文化 偏狭な独善を戒む『大阪新聞』1952年4月29日
 新議員への期待『毎日新聞』1953年4月19日=>『[大阪]毎日新聞[夕刊]』
 平和教育の課題『中部日本新聞』1954年2月10日=>1月
 MSA協定と憲法『産業経済新聞』1954年3月11日=>『[大阪]産業経済新聞』
 国会の更生『朝日新聞』1954年6月20日=>『[大阪]朝日新聞』
 ガイガーの音消えず『大阪新聞』1954年12月29日=>30日
 菊池寛と芥川龍之介『読売新聞』1955年9月12日=>『[大阪]読売新聞』
 人権は尊重されているか『毎日新聞』（夕刊）1955年12月9日=>『[大阪]毎日新聞[夕刊]』
 公共奉仕の法理『なにわ』1956年3月=>公共奉仕の法理について、2月4日
 激動する政局『京都新聞』1956年4月29日～5月1日=>4月29、30日、5月1、2日
 新書本に望む『神港新聞』1956年11月11日=>『神港新聞[夕刊]』
 辞任のことば『学報』1957年10月25日=>「新旧学長挨拶」『[大阪市立大学]学報』
 わが青春時代の生活『読売新聞』1961年1月5日=>わが青春 寮生活に刺げき 芥川に接して文
 学を捨てる『[大阪]読売新聞』

(4) 下記著作は、未見として採録した。

青竹記『松陽新報』1907年4月17日
 国体とは何ぞや『日本輿論新聞』1946年10月12日
 労働組合における指導者への期待『労働新聞』1947年1月24日
 民主主義とマキアヴェルリズム『龍谷学園新聞』1947年5月25日
 終戦後の労働運動『大阪大学新聞』1948年4月25日
 大阪商科大学の歴史と大阪市立大学の開設『大阪商科大学同窓会報』1949年7月1日
 正常的な講和への期待『都新聞』1950年1月6日
 憲法と再軍備との関係『経済春秋』[3-10]、1951年10月1日
 読書と人生『弁論』[63]、1953年10月1日
 民主政治と耐乏の倫理『平安』1954年3月1日
 警察官と教養への努力『あおぞら』1955年1月1日
 現代と現代の課題『現代』1959年9月1日